

PHILHARMONY

September 2024
NHK Symphony Orchestra, Tokyo

終演時のカーテンコールを 撮影していただけます

スマートフォンやコンパクトデジタルカメラなどで撮影していただけます。

SNSでシェアする際には、ハッシュタグ「#N響」「#nhkso」の追加をぜひお願いいたします。
ほかのお客様の映り込みにはご注意ください。

※撮影はご自席からとし、手を高く上げる、望遠レンズや三脚を使用するなど、
周囲のお客様の迷惑となるような行為はお控えください

終演時
カーテンコール
撮影OK

「フラッシュ」は
お断りします

You are free to take stage photos during the curtain calls at the end of the performance.

You can take photos with your smartphone or compact digital camera.

When you share the photos on social media, please add #nhkso.

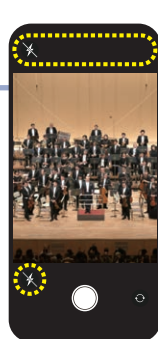
Be careful to avoid accidentally including any audience members in your photos.

「フラッシュ」オフ 設定確認のお願い

撮影前に、スマートフォンのフラッシュ設定が
「オフ」になっているかご確認ください。

Set your device to “flash off mode.”

Make sure that your smartphone is on
“flash off mode” before taking photos.



× 自動(オート)
Auto



× オン(強制発光)
On (Forced flash)



○ オフ
Off



スマートフォンのフラッシュをオフにする方法 | 多くの機種では、カメラ撮影の画面の四隅のどこかに、フラッシュの状態を示す⚡(カメラマーク)を含むアイコンが表示されています。これをタップすることで、「オン(強制発光)」「自動(オート)」「オフ」に変更できます。

インターネット アンケートに ご協力ください

N響では、今後のよりよい公演の実現に向けて、インターネットでアンケートを行っています。ご鑑賞いただいた公演のご感想や、N響の活動に対するみなさまのご意見を、ぜひお寄せください。ご協力をお願いいたします。

詳しくは44ページをご覧ください



こちらの2次元コードから
アンケートページへ
アクセスできます

<https://www.nhkso.or.jp/enquete.html>

お客様へのお願い

Please kindly keep in mind the following:



公演中は携帯電話、
時計のアラーム等は必ずお切りください

Be sure to set your phone to silent mode and turn off
your watch alarm etc. during the performance.



私語、パンフレットをめくる音など、
物音が出ないようにご注意ください

Please refrain from making any noise, such as engaging
in private conversations or turning booklet pages.



発熱等の体調不良時には
ご来場をお控えください

Please refrain from visiting the concert hall
if you have a fever or feel unwell.



演奏は最後の余韻まで
お楽しみください

Please wait until the performance has completed
before clapping hands or shouting “Bravo.”



演奏中の入退場は
ご遠慮ください

Please refrain from entering or leaving your seat
during the performance.



適切な手指の消毒、
咳エチケットにご協力ください

Your proper hand disinfection
and cough etiquette are highly appreciated.



場内での録画、録音、写真撮影は固くお断りいたします
(終演時のカーテンコールをのぞく)

Video or audio recordings, and still photography at the
auditorium are strictly prohibited during the performance.
(Except at the time of the curtain calls at the end of the concert.)



補聴器が正しく装着されているか
ご確認ください

Please make sure
that your hearing aids are properly fitted.



「ブラボー」等のお声掛けをされる際は、
周囲の方へのご配慮にご協力をお願いいたします
When shouting “Bravo,”
please be considerate of people around you.

PHILHARMONY

CONTENTS

SEPTEMBER 2024

9

- 8 [公演プログラム] **Aプログラム**
- 13 [公演プログラム] **Bプログラム**
- 19 [公演プログラム] **Cプログラム**
- 25 [シリーズ] **N響百年史** | 第48回 | トスカニーニの使徒、東京へ 片山杜秀
- 2 NHK交響楽団メンバー
- 29 2024年10月定期公演のプログラムについて——公演企画担当者から
- 31 チケットのご案内
- 32 2024–25定期公演プログラム
- 35 特別公演／各地の公演
- 39 曲目解説執筆者／Information
- 40 特別支援・特別協力・賛助会員
- 44 みなさまの声をお聞かせください！
- 45 NHK SYMPHONY ORCHESTRA, TOKYO Members

Artist Profiles & Program Notes

- 46 Program A
- 49 Program B
- 52 Program C
- 56 The Subscription Concerts Program 2024–25
- 59 N響関連のお知らせ
- 60 N響の社会貢献
- 61 役員等・団友

NHK交響楽団

首席指揮者:ファビオ・ルイージ

名誉音楽監督:シャルル・デュトワ

桂冠名誉指揮者:ヘルベルト・ブロムシュテット

桂冠指揮者:ウラディーミル・アシュケナージ

名誉指揮者:バーヴォ・ヤルヴィ

正指揮者:尾高忠明、下野竜也

特別コンサートマスター:篠崎史紀

第1コンサートマスター:郷古 廉

ゲスト・コンサートマスター:川崎洋介

第1ヴァイオリン

- 青木 調
○宇根京子
大庭由希
○倉富亮太
後藤 康
小林玉紀
高井敏弘
東條太河
猶井悠樹
中村弓子
降旗貴雄
松田拓之
○三又治彦
宮川奈々
○山岸 努
○横溝耕一

第2ヴァイオリン

- 大宮臨太郎
○森田昌弘
木全利行
齋藤麻衣子
○嶋田慶子
○白井 篤
○田中晶子
坪井きらら
丹羽洋輔
平野一彦
船木陽子
俣野賢仁
村尾隆人
矢津将也
山田慶一
○横島礼理
横山俊朗

米田有花

飯塚歩夢

ヴィオラ

- 佐々木 亮
○村上淳一郎
☆中村翔太郎
小野 聡
小島茂隆
□坂口弦太郎
谷口真弓
飛澤浩人
○中村洋乃理
松井直之
三国レイチェル由依
#御法川雄矢
○村松 龍
山田雄司

チェロ

- 辻本 玲
○藤森亮一
市 寛也
小島幸法
○中 実穂
○西山健一
藤村俊介
藤森洗一
宮坂拓志
村井 将
矢部優典
○山内俊輔
渡邊方子

コントラバス

- 吉田 秀
○市川雅典
稻川永示
○岡本 潤
今野 京
○西山真二
本間達朗
矢内陽子

フルート

- 甲斐雅之
○神田寛明
梶川真歩
#中村淳二

オーボエ

- 吉村結実
池田昭子
坪池泉美
和久井 仁

クラリネット

- 伊藤 圭
○松本健司
山根孝司

ファゴット

- 宇賀神広宣
○水谷上総
佐藤由起
菅原恵子
森田 格

ホルン

- 今井仁志
石山直城
勝俣 泰
木川博史
庄司雄大
野見山和子

トランペット

- 菊本和昭
○長谷川智之
安藤友樹
藤井虹太郎
山本英司

トロンボーン

- 古賀 光
○新田幹男
池上 亘
黒金寛行
吉川武典

チューバ

- 池田幸広

ティンパニ

- 植松 透
○久保昌一

打楽器

- 石川達也
黒田英実
竹島悟史

ハーブ

- 早川りさこ

ステージ・マネージャー

- 徳永匡哉
黒川大亮

ライブラリアン

- 沖 あかね
木村英代

こちらの2次元コードから
楽員の詳しいプロフィールが
ご覧いただけます。

<https://www.nhkso.or.jp/about/member/index.html>



(五十音順、○首席、☆首席代行、○次席、□次席代行、#インスペクター)

Special Thanks



NHK SYMPHONY ORCHESTRA T O K Y O

特別支援

岩谷産業株式会社

 三菱地所株式会社

 みずほ銀行

公益財団法人 渋谷育英会

東日本旅客鉄道株式会社

 NTT 東日本

東京海上ホールディングス株式会社

With Special Support of

Iwatani Corporation

Mitsubishi Estate Co., Ltd.

Mizuho Bank, Ltd.

Shibuya Scholarship Foundation

East Japan Railway Company

Nippon Telegraph and Telephone East Corporation

Tokio Marine Holdings, Inc.

感性の導く方へ、
生きていく。



THE NEW
TOURING



人生に、駆けぬける歓びを。

Photo: New BMW i5 M60 xDrive Touring

※写真の車は日本仕様とは異なります。また、オプション装備等を含む場合は車両価格が異なる場合があります。

FOR MORE
INFORMATION



※表示の価格はメーカー希望小売価格(消費税込)で参考価格です。販売価格はBMW正規ディーラーが独自に定めておりますので、お問い合わせください。※価格および装備の設定等は、在庫車両の生産時期等により異なる場合があります。また、価格帯には受注生産モデルも含まれます。詳しくはBMW正規ディーラーまでお問い合わせください。※価格(リース料を除く)には、税金(消費税を除く)、保険料、登録に伴う諸費用、付属品価格等は含まれません。※リース契約の場合を除き、リサイクル料金が別途必要となります。※価格は予告なく変更する場合がありますので、あらかじめご了承ください。※使用している写真は印刷物のため、実際の色合いと異なる場合があります。※車両充電時には、充電スタンドや充電ケーブルに近づかないでください。※充電により動作に影響を与えるおそれがありますので、植込み型扉ベースメーカーおよび除細動機能なし植込み型両心室ペースメーカーを装着されているお客様は、車両充電の操作はご自身ではなさらず他の方をお願いしてください。※プロダクトに関する詳細はwww.bmw.co.jp、またはBMW正規ディーラーにてご確認ください。※以上の内容は、予告なく変更、終了する場合がございます。※世界規模の半導体部品供給難等により、一部の標準装備やオプションの設定削除、およびパッケージ・オプションに含まれる装備の変更が発生しておりますこと、深くお詫び申し上げます。装備の設定や価格の詳細につきましては、BMW正規ディーラーまでお問い合わせください。※記載の内容は2024年7月30日現在のものです。【お問い合わせ】BMW カスタマー・インタラクション・センター 0120-269-437 平日9:00am~7:00pm、土日祝9:00am~6:00pm 年中無休。

New 523d xDrive Touring Exclusive	8速AT 5ドア 右ハンドル	8,900,000円	New i5 eDrive40 Touring Excellence	5ドア 右ハンドル	10,400,000円
New 523d xDrive Touring M Sport	8速AT 5ドア 右ハンドル	9,600,000円	New i5 eDrive40 Touring M Sport	5ドア 右ハンドル	10,400,000円
			New i5 M60 xDrive Touring	5ドア 右ハンドル	16,000,000円

世界をつなぐ、あたらしい空へ。





OUR HIFI JOURNEY
WITH YOU NEVER ENDS



お客様コミュニケーションセンター オーディオ・ビジュアル機器ご相談窓口 TEL: 0570-011-808
※上記番号でつながらない場合は TEL: 053-460-3409 月～金曜日 10:00 ～ 17:00 (土日・祝日・センター指定定休日を除く)
<https://jp.yamaha.com/av/>

株式会社ヤマハミュージックジャパン



この活動を広めるために作成した
ロゴマークです

文化芸術・集客エンタメをSDGsの 18番目の目標に

SDGsの17項目には、文化や芸術、エンタテインメントに関する目標が語られていません。ぴあでは、世界の多様な文化の共存・共生こそが、サステナビリティの根源にあるはずだと考え、その18番目の目標として、文化芸術、エンタテインメント、スポーツの必要性を掲げ、心豊かな暮らしと社会のために、あらゆる人々の文化的活動を支援することを提言します。これらは、私たちにとって“なくてはならないもの”であり、同時に、人々の相互理解やコミュニケーションを深め、差別のない社会を作り、世界平和に向けた共感への近道になると考えています。この活動への、皆様からご支援をお願いいたします。

ひとりひとりが生き生きと[※]

ぴあ

※ 1998年に発表した、
当社の企業理念です



PROGRAM

A

第2016回

NHKホール

9/14 土 6:00pm

9/15 日 2:00pm

指揮

ファビオ・ルイージ

コンサートマスター

郷古 廉

ブルックナー生誕200年

ブルックナー

交響曲 第8番 ハ短調

(初稿/1887年) [93']

I アレグロ・モデラート

II スケルツォ:アレグロ・モデラート・トリオ

III アダージョ: 厳かにゆっくりと、しかし引きずらないように

IV 終曲: 厳かに、速くなく

※この公演に休憩はございません。あらかじめご了承ください。

※演奏時間は目安です。

インターネットアンケートにご協力ください

N響では、今後のよりよい公演の実現に向けて、インターネットでアンケートを行っています。みなさまの貴重なご意見を参考にさせていただきます。ぜひお声をお寄せください。ご協力お願いいたします。

詳しくは44ページをご覧ください



こちらの2次元コードから
アンケートページへアクセスできます



<https://www.nhkso.or.jp/enquete.html>

ファビオ・ルイージ(指揮)



1959年、イタリア・ジェノヴァ出身。デンマーク国立交響楽団首席指揮者、ダラス交響楽団音楽監督を務める。N響とは2001年に初共演し、2022年9月首席指揮者に就任。就任記念公演でヴェルディ《レクイエム》を、2023年12月のN響第2000回定期公演ではマーラー《一千人の交響曲》を指揮し、この2つの記念碑的公演で共に大きな成功を収めた。またベートーヴェン、ブラームス、ブルックナー、R. シュトラウスなどのドイツ・オーストリアの作品や、フランクやサン・サーンスといったフランス語圏の作品に取り組み、その歌心と情熱に溢れた指揮は、多くの聴衆の心を掴んでいる。2024年8月にはN響台湾ツアーを率い、2025年5月には「マーラー・フェスティバル」(アムステルダム・コンセルトヘボウ)への招待に合わせて行われるヨーロッパツアーで指揮を務める。

これまでにチューリヒ歌劇場音楽総監督、メトロポリタン歌劇場首席指揮者、ウィーン交響楽団首席指揮者、ドレスデン国立歌劇場管弦楽団および同歌劇場音楽総監督、MDR(中部ドイツ放送)交響楽団芸術監督、スイス・ロマン管弦楽団音楽監督、ウィーン・トーンキュンストラ管弦楽団首席指揮者などを歴任。このほか、イタリアのマルティナ・フランカで行われるヴァッレ・ディートリア音楽祭音楽監督も務めている。また、フィラデルフィア管弦楽団、クリーヴランド管弦楽団、ミュンヘン・フィルハーモニー管弦楽団、ミラノ・スカラ座フィルハーモニー管弦楽団、ロンドン交響楽団、ロイヤル・コンセルトヘボウ管弦楽団、サイトウ・キネン・オーケストラに定期的に客演し、世界の主要オペラハウスにも登場している。録音には、ヴェルディ、ベッリーニ、シューマン、ベルリオーズ、ラフマニノフ、リムスキー・コルサコフ、マルタン、そしてオーストリア人作曲家フランツ・シュミットなどがある。また、ドレスデン国立歌劇場管弦楽団とは数々のR. シュトラウスの交響詩を収録しているほか、ブルックナー《交響曲第9番》の解釈は高く評価されている。メトロポリタン歌劇場とのワーグナー《ジークフリート》《神々のたそがれ》のレコーディングではグラミー賞を受賞した。

Program Note | 高松佑介

2024-25シーズンの幕開けとして首席指揮者ファビオ・ルイージが選んだのは、まさに今月4日に生誕200年を迎えたアントン・ブルックナー(1824~1896)が最後に完成させた交響曲、《第8番ハ短調》である。しかも今回は、ブルックナーが純粹に彼の音楽的志向を追求して完成させた「初稿」と呼ばれる形態を取り上げる。この稿は作曲者が納得する出来に仕上がっていたものの、第三者の見解を取り入れて改訂が施されたため、今日に至るまで上演の機会が多くない。数々の指揮者と《第8番》を共演してきたN響にとっても初稿での演奏は初めてとのこと、貴重な機会に期待が高まる公演だ。

交響曲 第8番 ハ短調 (初稿／1887年)

アントン・ブルックナーが「交響曲作曲家」としての榮譽を得るまでには、長い道のりが待ち受けていた。オーストリア帝国リンツ郊外の小村アンスフェルデンに1824年に生まれたブルックナーは、オルガン演奏の才能により頭角を現し、三十代にはリンツで教会オルガニストの職を得た。すでに教会音楽などは手がけていたが、この頃ジモン・ゼヒターとオットー・キツラーのもとで基礎から作曲の修練を積み、四十を間近にして交響曲創作に打ち込むこととなる。

ブルックナーは1868年から拠点をウィーンに移し、音楽院教授や宮廷オルガニストなどを務めながら、番号の付いた交響曲を生涯で9つ遣した。最初の頃はベートーヴェンの短調交響曲《第5番》と《第9番》を念頭に置いたかのように、ハ短調とニ短調に照準を定めている(《第1番ハ短調》《無効ニ短調》[いわゆる「第0番」]《第2番ハ短調》《第3番ニ短調》)。しかし思い望むような喝采を浴びるには長い年月を要した。彼は《第4番》から《第7番》までの交響曲を長調で書き、御年六十を過ぎたころ《第7番》で国際的な成功を収め、ようやく「交響曲作曲家」としての名声を手にしたのである。ここでブルックナーは初心に立ち返ったのだろうか、《第8番》と《第9番》を再びハ短調とニ短調で創作し、後者は絶筆となった。

このようにしてブルックナーは、1884年夏に《第8番ハ短調》に着手した。1885年夏には全楽章のスケッチを終え、その最後に「ハレルヤ!」と書き込むとともに、特にフィナーレは「生涯で最も意味深い楽章」であると弟子フランツ・シャルクに自負を伝えている。1887年夏に初稿が完成した際には、《第7番》を成功に導いた「芸術上の父」と慕う指揮者ヘルマン・レーヴィに喜びを書簡で伝え、演奏してもらうべく総譜を送った。この時おそらく、ベートーヴェンという偉大な先達によって刻印された「ハ短調交響曲」に初期の頃とは異なる角度から再び挑んだ成果として、確かな手応えを感じていたに違いない。

だが、レーヴィからの返事は作曲者の期待に反して、この曲が理解できず演奏は困難、というものだった。落胆したブルックナーは改訂に着手し、本作は1890年に第2稿として姿を変えることとなった。とりわけ、第2楽章トリオ部の書き換えや第3・4楽章の短縮、そして輝かしいハ長調の出現を最終楽章まで取っておく措置などが大きな変更点である。ブルックナーは、この新稿で最初に初演を依頼した指揮者フェリックス・ワインガルトナーに宛てて、「フィナーレは確実に短縮するようかどうかお願いします。なぜならそれは長すぎますし、のちの時代にのみ、しかも友人や専門家たちの間で通用するものですから」(1891年1月27日付)と書き送っている。この書簡からは、作曲者が当時の受容を念頭に置いて改訂に向き合っていたという事実だけでなく、短縮しない形態も、のちに通用する時代が来ると信じていたことも読み取れる。

この交響曲を特徴づけるのは、大伽藍^{だい が らん}にも比類される荘厳さである。なかでも緩徐楽章は30分近い演奏時間を要するほど長大だ。楽曲の精神的深遠さを描き出す重心となるこの楽章は、通例の第2楽章ではなく第3楽章に置かれており、さらには続く最終楽章も、《第7番》のそれと比べて倍の小節数を有し、緩徐楽章と同じ「厳かにFeierlich」の発想標語が付されている。改訂稿で第1楽章の再現部に「厳かに」の指示が追加されたことも考慮し、楽曲全体に厳かな「祝典Feier」の性格を認める向きもあるほどである。なお、弟子アウグスト・ストラダルの回想によると作曲者は1886年夏に、第1楽章の終結部は弔鐘の模倣、スケルツォは「ドイツのミヒェル」（ドイツ国民を象徴する質朴な人物像のこと）、第4楽章の冒頭はオーストリアとロシアの両皇帝の会談の際に騎行するコサック、力強い管楽器の主題は両皇帝を表していると語ったという。

第1楽章はブルックナーの典型どおり、性格の異なる3つの主題によるソナタ形式で書かれている（第1主題部：ハ短調、第2主題部：ト長調、第3主題部：変ホ短調）。冒頭2小節のトレモロに続き、低弦によって静かに提示される第1主題は、それに含まれる4分音符2つ+3連符の動機が第2主題と呼应するのみならず、この楽章やほかの楽章においてたびたび回帰し、ファンファーレとして高揚を支えるなど交響曲全体の統一に貢献する。楽章末はハ長調となり、《第7番》までの交響曲と同じように高らかに幕となる（第2稿では対照的に、ハ短調のまま静かに終わる）。

第2楽章はスケルツォ楽章。一定のリズムを執拗^{しつよう}に反復しながら転調によって色合いを変化させてゆく主部に、甘美なトリオ部が挟まれるという大きく3つの部分からなる。

第3楽章は壮大な緩徐楽章。2つの主題が交互に現れる5部分の形式を取り、ハーブが独特の彩りを添える。冒頭主題が現れるたびに高揚を重ね、3回目ではワーグナーの《ニーベルングの指環》に登場する「ジークフリートの動機」を暗示する形で第1楽章の第1主題が回帰し、転調の末に高らかなハ長調の頂点に辿り着いたあと、静かな結尾部で楽章を閉じる（第2稿では頂点が変ホ長調に置かれる）。

フィナーレの**第4楽章**もまた壮大な楽章である。木管を2本ずつ用いていた第3楽章までに対し、木管を各1本追加して音響の密度を増強しているのも特徴だ（改訂稿では全楽章が3管編成となる）。切迫感の強い第1主題部、歌うような第2主題部、マーチ風の第3主題部という3つの主題から成るソナタ形式を取る。結尾部では高揚のあとにハ長調に到達し、その煌めく響きの中で全ての楽章の主要主題が重ね合わさることによって交響曲が締めくくられる。

作曲年代	1884年7月～1887年8月（初稿）、1889年5月～1890年3月改訂
初演	〔改訂稿〕1892年12月18日、ウィーン 〔初稿全曲〕1973年9月2日、ロンドン
楽器編成	フルート3（ピッコロ1）、オーボエ3、クラリネット3、ファゴット3（コントラファゴット1）、ホルン8（ワーグナー・チューバ4）、トランペット3、トロンボーン3、チューバ1、ティンパニ1、トライアングル、シンバル、ハーブ2、弦楽

A
2024
SEPTEMBER
[第2016回]
🐱🐱

いつまでも都会に
染まらない朴訥な苦勞人
アントン・
ブルックナー
Anton Bruckner (1824-1896)

遅咲きの苦勞人ブルックナーが心酔していた作曲家はワーグナー。だが、当時のウィーンの楽壇では、大作曲家ブラームスの友人であり音楽評論家のハンスリックが、舌鋒鋭くワーグナー批判を展開していた。ブルックナーは「ワーグナー派」とみなされてハンスリックに睨まれ、ブラームスとも疎遠だったが、ウィーンに住む者同士、レストランで同席することもあったとか。相席したときには、意外にもおだやかで楽しいひとときを過ごしたという。

ブルックナーとブラームス

派閥(?)は違えど、その才能には敬意を表していたようで、ブラームスはブルックナーの《交響曲第6番》の演奏を聴いて、拍手を惜しなかったという。また、ブラームスの蔵書には、ブルックナーの《交響曲第7番》が収められていた。レストランで同席した際には、2人共通の好物、レバークネーデル・ズッペを食したという。



一緒にレバークネーデル・ズッペを楽しむ2人。
クネーデルは団子、ズッペはスープの意で、
レバーのミートボール・スープのようなもの
イラストレーション: ©IKE



B

第2017回

サントリーホール

9/19 木 7:00pm

9/20 金 7:00pm

指揮

ファビオ・ルイージ | プロフィールはp.9

ピアノ

エレヌ・グリモー

コンサートマスター

篠崎史紀

B

19 & 20, SEPT. 2024

シューベルト

イタリア風序曲 第2番 ハ長調 D. 591
[7']

シューマン

ピアノ協奏曲 イ短調 作品54 [31']

I アレグロ・アフエツトウオーソ

II 間奏曲: アンダンティーノ・グラチオーソ

III アレグロ・ヴィヴァーチェ

——休憩(20分)——

ベートーヴェン

交響曲 第7番 イ長調 作品92 [43']

I ポーコ・ソステヌート・ヴィヴァーチェ

II アレグレット

III プレスト

IV アレグロ・コン・ブリオ

※演奏時間は目安です。

インターネットアンケートにご協力ください

N響では、今後のよりよい公演の実現に向けて、インターネットでアンケートを行っています。みなさまの貴重なご意見を参考にさせていただきたく、ぜひお声をお寄せください。ご協力お願いいたします。

詳しくは44ページをご覧ください



こちらの2次元コードから
アンケートページへアクセスできます



<https://www.nhkso.or.jp/enquete.html>

エレーヌ・グリモー (ピアノ)



1969年エクサン・プロヴァンスに生まれたフランスのピアニスト。マルセイユでピエール・バルビゼ、パリ国立高等音楽院でジャック・ルヴィエに師事。さらにジェルジ・シャンドルやレオン・フライシャーのもとで研鑽を積んだ。

1987年に、東京でデビュー・リサイタルを行い、ダニエル・バレンボイムからパリ管弦楽団にも招かれて、国際的な活躍が始まった。13歳のときベートーヴェンの後期作に熱中、以来シューマン、ブラームスなどドイツ・オーストリアの音楽に深い関心を寄せる。一方で、同時代作品を含む広範なレパートリーに関心を示し、ときには生と死の思索から、独自に音楽をみつめてきた。

「舞台に立つのは、真実のためではない。真実は人によってみな違うから。それは自分のもっているすべてを与えるため。自分と音楽との関係のなかで真率であるべき」と語っていた。著作も手がけ、狼と共生したり、共感覚の持ち主であったりと、いろいろな才覚をみせる人でもある。

N響とは11年ぶりの共演。20年前にアシュケナージの指揮で臨んだシューマンの協奏曲は、彼女の本領が鮮やかに発揮される曲だろう。

[青澤隆明／音楽評論家]

Program Notes | 小味渕彦之

「ハ長調」から同じ調号で示される平行調の「イ短調」、さらにその同主調である「イ長調」へと続く、調性的に近い関係を持つ3曲で構成されたプログラム。作品の成立時期に計33年のへだたりしかないことにも注目だ。最後に演奏されるベートーヴェンの《交響曲第7番》が初演された1813年に、シューベルトは16歳、シューマンは3歳だった。古典派のベートーヴェン、初期ロマン派のシューベルトとシューマンと区切りをつけたいが、彼らが生きた時代が意外に近接したものだったことは再確認しておきたい。

シューベルト

イタリア風序曲 第2番 ハ長調 D. 591

約600曲のリート(歌曲)を残し、「歌曲王」として知られるフランツ・シューベルト(1797～1828)は、ウィーン郊外のリヒテンタールで生まれてウィーンで活躍した作曲家。存命時の名声はベートーヴェンやシューマンには到底及ばなかった。繊細な陰影の描き分けで表現されたかけがえのない音楽が、ようやく仲間内の枠を超えて、外の世界に広がり始め

た時に、31年10か月という短い生涯を閉じた。

本作における洒落た装飾^{しやれ}のついた弦楽器の響きと軽やかに歌う木管楽器のメロディに、別の作曲家の顔が思い浮かぶ。喜劇的オペラの名手として名を成したイタリアのジョアッキノ・ロッシーニ(1792～1868)だ。あれほどまでの洗練された面持ちとはならないのが、これまたシューベルトらしさ。まさに「イタリア風」の名で友人たちが呼んだ「序曲」は1817年(20歳)に2曲(この作品と《第1番 ニ長調 D. 590》)残された。シューベルトがこれだけ影響を受けて音楽を書いたということは、ウィーンの街でロッシーニの音楽が大流行したという証だ。全盛期の人気は凄まじいもので、ロッシーニのオペラに夢中になるウィーンの聴衆に愛想を尽かしたのは、他ならぬベートーヴェンだった。

全体の3分の1ほどを占める長い序奏に続くのは軽快なアレグロだが、すぐに息の長いロッシーニ・クレッシェンドの模倣が聴こえてくるのも微笑ましい。1818年3月1日にウィーンにあるホテル「ローマ皇帝」のホールで開かれた公開演奏会で、この《D. 591》もしくは《D. 590》が取り上げられたとされる。これはシューベルトの作品が教会で奏でられたミサ曲を除いて、公の場で音になった初めての機会だった。

作曲年代	1817年
初演	1818年3月1日にホテル「ローマ皇帝」のホールで開かれた公開演奏会にて初演されたといわれる
楽器編成	フルート2、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン2、トランペット2、ティンパニ1、弦楽

シューマン

ピアノ協奏曲 イ短調 作品54

ローベルト・シューマン(1810～1856)にとって協奏曲を書くことは相当な難題だったようだ。若い頃から珠玉のピアノ独奏曲は生み出してきたが、「ピアノ協奏曲」を手がけはしても、なかなか書き上げるところまでは至らなかった。1841年5月にライプツィヒで書いた《ピアノと管弦楽のための幻想曲》は試演のあとも手直しが続いていたが、これを第1楽章として「ピアノ協奏曲」を完成させる決意をする。これには妻クララの強い後押しがあった。ドレスデンで1845年(35歳)6月と7月に第3楽章に取りかかり、第2楽章へと筆をすすめる。最後に手がけたのは、切れ目なしにつながる第2楽章から第3楽章への移行部分で、7月末には念願の完成に至った。この年の12月4日に試演されて、翌1846年1月1日にゲヴァントハウスの演奏会で公開初演。どちらもクララがピアノを弾いた。従来の名人芸タイプの協奏曲の枠組みを抜け出した作品で、独奏とオーケストラが時に一体となって響きが構築されている。地道な対位法研究の成果も反映されており、シューマンのオーケストラ作品の中でも群を抜いて、まとまりのある構築だと言える。

3楽章で構成。第1楽章冒頭は閃光^{せんこう}がほとばしるようなオーケストラの一撃が打ち

込まれる。これに導き出された独奏ピアノの下行する和音のパッセージに続く「ドーシーララー」という主題はドイツ語の音名表記では“C-H-A-A”となり、「キアリーナ Chiarina」の綴りを音に置き換えたものだ。キアリーナはシューマンが妄想した架空の団体「ダヴィッド同盟」の構成員のひとりで妻クララのことを示す。夢見るような展開は、まさに「幻想曲」そのもの。第2楽章は「インテルメッツォ（間奏曲）」と記されて、甘くロマンティックな音楽が綴られた。独創的な第3楽章への移行部では第1楽章の主題が回想される。第3楽章は独奏ピアノとオーケストラの各パートが休みなく動いて絡み合い、しなやかなフィナーレが生まれる。

作曲年代	1841年、1845年
初演	1846年1月1日にライブツヒのゲヴァントハウスにおける演奏会で公開初演
楽器編成	フルート2、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン2、トランペット2、ティンパニ1、弦楽、ピアノ・ソロ

ベートーヴェン

交響曲 第7番 イ長調 作品92

ルートヴィヒ・ファン・ベートーヴェン（1770～1827）がハイドンやモーツァルトが培った従来の交響曲というフォーマットに込めたひとつの総決算ともいえる曲。プラハの北西にあるテプリツ（現在はチェコのテプリツェ）での保養からウィーンに戻った1811年9月後半（遅くとも11月）になって本格的に取り組んだ。《第8番》のスケッチも同時進行で進められ、《第7番》は1812年（42歳）5月には完成。その後ベートーヴェンは《第8番》の作曲にのぞんだ。

1813年4月20日にルドルフ大公邸で試演ののち、同年12月8日にウィーン大学の講堂で行われた慈善演奏会で公開初演。このコンサートには戦争で負傷した兵士のための救援資金を募る目的があった。フランス革命後の混乱期以降、ヨーロッパの各地へのナポレオンによる侵攻は長く続き、1805年11月と1809年5月の2度にわたってウィーンの街をナポレオンは占領。社会不安は市民の生活に直接の影響が出るほどに高まっていたのだ。同時に初演されたのが《ウェリントンの勝利》で、これは初代ウェリントン侯爵アーサー・ウェルズリーが率いるイギリス軍が、フランス軍、つまりナポレオンに勝利した戦いを描写したもの。12月12日にも同内容の演奏会が開かれ、翌1814年2月27日には《第7番》と《ウェリントンの勝利》を再び取り上げて、さらに《第8番》が初演されている。こうして《交響曲第7番》はウィーンの聴衆に受け入れられ、同時に多大な収入をベートーヴェンにもたらしたのだ。

4楽章で構成。第1楽章は交響曲では《第4番》以来となる序奏が堂々としたオーケストラの一撃で始まる。ここは閃光ではなく、重量感たっぷりの響きがどっしりとあらわれ、

その中からオーボエが吹く下行音型が顔を出す。作品全体で表現された音楽的なエッセンスは「大胆なリズムと歌心に満ちたメロディ」の2点に集約され、そこに自在な変化をもたらすのは3度上と3度下という遠隔調への転調だ。序奏からそのことが顕著にあらわれる。6/8拍子の主部に入ると「タータタン」という付点8分音符、16分音符、8分音符が連なるリズムが続く。徹底的なリズムの積み重ねが、軽やかさを兼ね備えたダイナミックな音楽を創る。第2楽章を支配するのは「タータターター」という4分音符と8分音符が組み合わせられたリズム。葬送行進曲風の歩みではあるが、極端な悲劇性はない。緩徐楽章ではなく、あくまでもその代用だ。第3楽章は従来のスケルツォ楽章の役割を果たしつつも、ロンドの要素を持ち込んだ独自の構成。「タタンタタンタ」というユーモラスなリズムが続く。第4楽章は冒頭で2度にわたって叩きつけられる「タンタタン」の8分音符と16分音符の組み合わせられたリズムの繰り返し、凄まじいトランス状態になった。まさにベートーヴェンの新境地は極まっている。

作曲年代	1811年から1812年
初演	1813年12月8日にウィーン大学の講堂で行われた慈善演奏会で公開初演
楽器編成	フルート2、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン2、トランペット2、ティンパニ1、弦楽

クラシック音楽というジャンルを越えて、その名を轟かせている作曲家、ベートーヴェン。
なかでも9つの交響曲は世界中で愛されている。本日演奏される《交響曲第7番》は、
ベートーヴェンが名声を確立し、成熟期に生み出された曲。「舞踏の神化」と称賛され
たように、まさに、躍動感あふれるリズムな音楽が神になったかのような作品だ。しかし
この輝かしい曲が初演されて数年、ベートーヴェンの難聴はさらに悪化していく。

B

2024

SEPTEMBER

[第2017回]



メルツェルと ベートーヴェン

機械技師で興行師のメルツェルは、
ベートーヴェンに《ウェリントンの勝利》
の作曲をすすめた人物。時流にあった
曲は評判を呼び、同じ演奏会で初演さ
れた《交響曲第7番》の成功を後押しし
た。メルツェルが作ったメトロノーム
はベートーヴェンをおおいに刺激
し、弟と開発した耳トランペット
(補聴器)はベートーヴェン
も使用している。

ベートーヴェンのお墓はメトロームの形！
作品にも速度表示を導入して、
理想のテンポ感を示した

イラストレーション: ©IKE

Ludwig van Beethoven (1770-1827)

不屈の精神で紡ぎ出される大迫力の交響曲 ルートヴィヒ・ ファン・ベートーヴェン



C

第2018回

NHKホール

9/27 金 7:00pm

9/28 土 2:00pm

指揮

尾高忠明

チェロ

辻本 玲*

コンサートマスター

郷古 廉

C

27 & 28, SEPT. 2024

チャイコフスキー

ロココ風の主題による変奏曲 作品33
(フィツェンハーゲン版)* [18']

——休憩(20分)——

チャイコフスキー

バレエ音楽「白鳥の湖」作品20(抜粋)
[62']

序奏

[第1幕] 第1曲 情景

第2曲 ワルツ

第5曲 パ・ド・ドウ

第8曲 コップの踊り

[第2幕] 第10曲 情景

第13曲 白鳥の踊り

III 大きい白鳥の踊り

IV 小さい白鳥の踊り

V オデットと王子のパ・ダクシオン

[第3幕] 第15曲 (アレグロ・ジュスト)

第20曲 ハンガリーの踊り。

チャールダーシュ

第21曲 スペインの踊り

第22曲 ナボリの踊り

第23曲 マズルカ

[第4幕] 第28曲 情景

第29曲 情景・終曲

※ 演奏時間は目安です。

インターネットアンケートにご協力ください

N響では、今後のよりよい公演の実現に向けて、インターネットでアンケートを行っています。みなさまの貴重なご意見を参考にさせていただきます。ぜひお声をお寄せください。ご協力お願いいたします。

詳しくは44ページをご覧ください

こちらの2次元コードから
アンケートページへアクセスできます<https://www.nhkso.or.jp/enquete.html>

尾高 忠明 (指揮者)



1947年生まれ。父の尚忠^{ひきただ}は作曲家・指揮者、母の節子^{みさおこ}はピアニスト、兄の惇忠^{あつただ}は作曲家という音楽一家の出身である。桐朋学園大学で齋藤秀雄に指揮を師事し、第2回民音指揮者コンクールで第2位に入賞。NHK交響楽団の指揮研究員を経て、東京フィルハーモニー交響楽団の常任指揮者（現桂冠指揮者）、読売日本交響楽団の常任指揮者（現名誉客演指揮者）、札幌交響楽団の音楽監督（現名誉音楽監督）、新国立劇場オペラ芸術監督などを歴任し、2018年から大阪フィルハーモニー交響楽団の音楽監督を務めている。また、後進の指導にも熱心に取り組んでいる。

1971年の放送用の公開収録で指揮者としてデビュー以来、N響とは半世紀以上にわたって共演を重ね、2010年には正指揮者に就任。N響から充実した響きを引き出している。今回の定期のチャイコフスキー・プロのメインは、『白鳥の湖』（抜粋）である。N響とは初披露の演目であるが、BBC ウェールズ・ナショナル管弦楽団の首席指揮者（現桂冠指揮者）として、イギリスでも人気のある尾高は、同地の音楽ファンたちがこよなく愛する『白鳥の湖』でも好評を得ているだけに、その円熟味を増した音楽づくりに期待が高まる。

[満津岡信育／音楽評論家]

辻本 玲 (チェロ)



愛知県出身。7歳よりチェロを始める。11歳まで米国フィラデルフィアで過ごし、東京藝術大学音楽学部器楽科を首席で卒業したあと、フィンランドのシベリウス・アカデミー、スイスのベルン芸術大学に留学。これまでに、東京交響楽団、読売日本交響楽団、ロシア国立交響楽団、ベルリン交響楽団などと共演しているほか、ソロ・リサイタルを定期的に行なう。また、チェロ四重奏団「クアルテット・エクスプローチェ」や「ひばり弦楽四重奏団」などの一員として、室内楽にも多数参加している。2009年、第2回ガスパール・カサド国際チェロ・コンクールで日本人最高位の第3位に入賞、2013年には第12回齋藤秀雄メモリアル基金賞を受賞。

2020年よりNHK交響楽団首席チェロ奏者。2021年のN響5月公演ではハイドンの協奏曲で、2022年の「N響ほんとコンサート」では林光《オーケストラのための童話「セロ弾きのゴーシュ」》で独奏を務めた。今回も情感たっぷりのソロを聴かせてくれるだろう。使用楽器は宗次コレクションより1730年製作のアントニオ・ストラディヴァリウスを、弓は住野泰士コレクションよりTourteを、特別に貸与されている。

9月のCプログラムで演奏されるのは、19世紀ロシアを代表する作曲家、ピョートル・イリイチ・チャイコフスキー（1840～1893）の代表作2作である。《ロココ風の主題による変奏曲》は、チェロと管弦楽のために書かれた、チェリストにとって重要なレパートリーのひとつ。いっぽう、《白鳥の湖》はバレエの世界を代表する古典大作である。両者は共に1870年代半ばに作曲されており、チャイコフスキーの多彩さを見出せるプログラムである。

チャイコフスキー

ロココ風の主題による変奏曲 作品33（フィッツェンハーゲン版）

西洋音楽史における19世紀は、楽器演奏の卓越した技術を誇る数々の名演奏家が活躍した時代である。独奏楽器にスポットが当たる協奏曲のジャンルも、この時代に大いに発展した。チャイコフスキーの作品では、1875年初演の《ピアノ協奏曲第1番》や、1881年初演の《ヴァイオリン協奏曲》が特に知られるが、本日演奏される《ロココ風の主題による変奏曲》も、実質的にはチェロ独奏の協奏曲と言って良い。

作曲は1876年末から始められ、翌1877年初頭に完成している。作曲の動機は、チャイコフスキーがチェロと管弦楽のレパートリーを充実させたいと考えていた、という話や、モスクワ音楽院の同僚で初演時の独奏者を務めたチェリスト、ウィルヘルム・フィッツェンハーゲンからの依頼だった、など、諸説ある。作品の献呈もフィッツェンハーゲンになされた。

初演は1877年11月30日に行われたが、この時、フィッツェンハーゲンは作品を大幅に書き変えている。元々の楽曲構成は序奏、主題提示ののちに8つの変奏があり、コーダによって締め括られる、という、主題の要素を巧みに発展させていく構造のもの。しかし、フィッツェンハーゲンは各変奏の並びを変え、主題の長さやいくつかの変奏の終結部分を変更、また8つ目の変奏は大幅に削除した。このように変更されたフィッツェンハーゲン版は、各変奏の性格の対比による演奏効果を高め、華やかなクライマックスを築くのが特徴的である。作品の書き換えを不愉快に感じながらも、初演の大成功を目の当たりにした作曲家は、「もうどうにでもすればいい」と述べ、フィッツェンハーゲン版の出版も止めなかった。以来、この版が一般的に用いられることが多い。

短い序奏の後に提示される独奏チェロの主題は、ロココの時代の舞曲を思わせるもの。弦楽器群が伴奏する第1変奏、スタッカートで駆け上がる独奏チェロが軽やかな第2変奏に続いて、第3変奏ではチャイコフスキー特有の下行形の旋律が際立つ。第4変奏では独奏チェロのカデンツァが挿入され、そのままフルートが主題を導く第5変奏へ。

長めのカデンツァが聴かれたのち、短調の第6変奏、急速な第7変奏とコードにより勢いよく終わる。

作曲年代	1876年末～1877年初頭
初演	1877年11月30日(旧ロシア暦11月18日)、モスクワ、ニコライ・ルビンシテイン指揮、ウィルヘルム・フィッ ツェンハーゲン独奏
楽器編成	フルート2、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン2、弦楽、チェロ・ソロ

チャイコフスキー

バレエ音楽「白鳥の湖」作品20(抜粋)

「“バレエ”と言われてイメージする作品は何ですか？」

毎年、筆者が大学で担当するバレエ史の講義の初回にこの質問を投げかけると、高確率で返ってくる答えのひとつが《白鳥の湖》である。チャイコフスキーが初めて完成させたバレエ曲であり、今日では世界中のバレエ・カンパニーのレパートリーに欠かすことのできない《白鳥の湖》だが、この作品は、初演時から現在のような位置付けを得ていたわけではなかった。

代々の皇帝一家が舞台芸術を好んでいたこともあり、ロシアには17世紀に始まるバレエ上演の長い伝統がある。チャイコフスキー自身は学生時代からバレエに親しみ、フランス・バレエの名作《ジゼル》を特に好んでいたという。その彼が、モスクワの帝室劇場管理部から《白鳥の湖》の作曲を注文されたのは、1875年の春のことだった。初演は1877年3月4日に行われたが、この初演をチャイコフスキーの弟のモデストが酷評していることと、1883年に作品が劇場のレパートリーから外れたことなどを理由に、初演は大失敗だった、とみなされている。作品の評価が高まったきっかけは、1893年に行われた作曲家の追悼記念ガラでの抜粋上演(第2幕)で、1895年にはサンクトペテルブルクの帝室劇場で全幕の改訂上演が行われ、今日では世界中で踊られる作品となった。

作曲にあたって、チャイコフスキーはさまざまなバレエ曲の楽譜をモスクワの帝室劇場の図書室から借りて研究し、バレエ音楽の伝統を吸収した。しかし、作曲家は《白鳥の湖》をありきたりのバレエ音楽にはせず、物語中の「善」と「悪」をシャープ系とフラット系の調性で描き分ける調性配置や巧みな管弦楽法の工夫によって、バレエ音楽に交響曲的な要素を入れ込んでいる。

本日演奏されるのは、指揮者の尾高忠明がバレエ全幕の楽曲から選び抜き、組曲版からも一部を取り入れ再構成した全15曲。〈パ・ド・ドゥ〉(いわゆる「黒鳥のパ・ド・ドゥ」の曲)や〈小さい白鳥の踊り〉、〈オデットと王子のパ・ダクシオン〉といった各幕の見どころや、第3幕の舞踏会で踊られるさまざまな国の踊りなど、《白鳥の湖》の中でも踊りのための

場面の音楽を中心にしている。ロ短調の序奏で始まりロ長調の終曲で終わるのも、チャイコフスキーによる調性プランの通り。さながら、『白鳥の湖』の物語、そして音楽のポイントを凝縮したダイジェスト版である。

1895年の改訂上演以来、さまざまな振付家によって改訂演出が行われていることで、『白鳥の湖』は、振付だけでなく曲順や物語の登場人物、結末なども、プロダクションによって異なる。以下に紹介するあらすじでは、今日の演出が基礎とすることの多い、1895年のプティパ／イヴァーノフ改訂振付版でのあらすじを記し、()内に本日演奏される楽曲を示した。

物語の舞台は古きドイツのとある王国(第1幕第1曲〈情景〉)。近々成人を迎える王子ジークフリートは、宮廷の友人たちから祝われる(第1幕第2曲〈ワルツ〉、第1幕第8曲〈コップの踊り〉)。しかし、王子は母の王妃から結婚を勧められ、浮かない気分に。気分転換のため、狩に出かけると(第2幕第10曲〈情景〉)、王子は美しい白鳥と出会う。実はこの白鳥は、悪魔の呪いにかかったオデット姫だった。王子は彼女の身の上を聞き(第2幕第13曲〈白鳥の踊り〉、〈オデットと王子のパ・ダクシオン〉)、彼女の呪いを解くため、オデットに永遠の愛を誓う。

王子の成人を祝う舞踏会が始まり(第3幕第15曲アレグロ・ジュスト)、招待客による踊りが披露される(第3幕第20曲〈ハンガリーの踊り。チャールダーシュ〉、第3幕第21曲〈スペインの踊り〉、第3幕第22曲〈ナボリの踊り〉、第3幕第23曲〈マズルカ〉)。するとそこにオデットそっくりの娘、オディールが突然現れる。王子はオディールのことをオデットと勘違いし(第1幕第5曲〈パ・ド・ドゥ〔黒鳥のパ・ド・ドゥ〕〉)、オディールとの結婚を宣言してしまうが、それは悪魔の罠だった。呪いが永遠に解けなくなり、絶望に打ちひしがれるオデットに許しを求める王子は(第4幕第28曲〈情景〉)、湖へ身を投げたオデットのあとを追い、自らを刺して、死をもって悪魔を破滅させる(第4幕第29曲〈情景・終曲〉)。

作曲年代	1875年8月～1876年4月
初演	1877年3月4日(旧ロシア暦2月20日)、モスクワ、ボリショイ劇場、ヴラディーミル・ペーギチェフおよびフーリ・ゲリツェルの台本、ヴェンツェル・レイジンゲル振付、ステパン・リャボフ指揮 [1895年蘇演] 1895年1月27日(旧ロシア暦1月15日)、サンクトペテルブルク、帝室マリンスキー劇場、モデスト・チャイコフスキーによる台本改訂、リッカルド・ドリゴによる楽曲改訂、マリウス・プティパおよびレフ・イヴァーノフ振付、リッカルド・ドリゴ指揮
楽器編成	フルート2、ピッコロ1、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン4、トランペット2、ホルネット2、トロンボーン3、チューバ1、ティンパニ1、トライアングル、タンブリン、カスターネット、シンバル、大太鼓、小太鼓、タムタム、グロッケンシュピール、ハープ1、弦楽

C
2024
SEPTEMBER
[第2018回]



美しく優雅な白鳥の舞い

ピョートル・イリイチ・ チャイコフスキー

Peter Ilich Tchaikovsky (1840-1893)

現代の私たちにとって、《白鳥の湖》はバレエの代名詞のような演目だ。オデットの美しい姿とともに、その音楽もひろく知られている。美しく優雅な旋律は、白鳥というモチーフにぴったりで、それを華麗な管弦楽法で彩るチャイコフスキーの才能には驚嘆するしかない。初演の失敗により、しばらくは演奏機会もなかった本作が、蘇^{そえん}演によってあらためて評価され、このように今日聴けることを^{ことば}寿ぎたい。

白鳥と黒鳥

バレエでは、白鳥オデットと黒鳥オディールは一人二役で踊ることが多い。純粋な白鳥オデットと、悪魔の娘である黒鳥オディール。《白鳥の湖》には、人間の持つ二面性に迫るような面白さもある。チャイコフスキーは、この二面性をも音楽で表現しながらドラマを支えている。



バレエ音楽の常識を覆し、
交響曲に匹敵する
美しい管弦楽法に彩られた《白鳥の湖》
イラストレーション: ©IKE

N響百年史

第四十八回 ―トスカニーニの使徒、東京へ―

片山杜秀 ―Morihide Katayama―

二〇二六年のN響創立百周年に向け、NHK-FM「クラシックの迷宮」のパーソナリティとしても馴染みの思想史研究者で音楽評論家の片山杜秀さんが、時代背景とともにN響の歴史をひもときます。近衛秀麿の後を襲ったのが、なぜローゼンストックだったのか――。トスカニーニからカラヤンへ連なる演奏美学の系譜から、ミッシェルリンクを探ります。

近視眼的選択だった招聘

ジョセフ・ローゼンストック。NHK交響楽団の歴史を語るうえで、最重要の指揮者のひとりである。近衛秀麿^{このえひでまろ}の後を継ぐ立場で、昭和10年代に君臨した。時はあたかも、日本の芸術・文化・芸能に追い風と逆風が渦を巻き、政治的抑圧・弾圧の負荷も次第に大きくなっていった頃合いである。ローゼンストックはそんな時代の日本でずっと過ごした。

彼が、日本放送協会などではなく、あくまで楽団員たちによって、近衛の後釜に選ばれたのは、芸術的確信にもとづいてのことではおそらくない。ローゼンストックは、今日のNHK交響楽団であるところの当時の新交響楽団に招かれるまで、日本の地を踏んだこともなければ、日本の楽壇とどこかで密接につながっていたわけでもなかった。SPレコードの録音などによって日本の好楽家の一部には知られていたが、話題の指揮者というほどではなかった。新交響楽団にとってローゼンストックはほぼ未知の指揮者だった。1935(昭和10)年から翌年にかけての近衛と楽団員との権力闘争の成り行きのなかで、楽団側が誰かを近衛に代わる指揮者として選びたいときに、いろいろと当てが外れ(たとえば人気指揮者、貴志康一の病臥^{びようが})、他の選択肢が乏しくなっていたので、緊急避難的に、相手のことをよくわからぬまま、ドイツをどうしても逃げ出さなくてはならなくなっていたローゼンストックをついつい呼んでしまったのであろう。

でも、この言わば“近視眼的選択”は、長い目で見直すと結局は正解だったかと思われる。楽団創設以来、柱の指揮者だった近衛は、ウィルヘルム・フルトヴェングラーに憧れ、カール・ムックやエーリヒ・クライバーに学ぶところも大き

かった。乱暴に歴史を区切れば、第1次世界大戦前までのロマン主義の気風が支配的だった時代を強く反映する指揮者たちが、近衛の意中の巨匠だった。芸術家は自らの主観によって世界に挑みかかるのであり、演奏家にとって世界に相当するのは偉大なる音楽作品であって、それをどう自らの精神と身体によって息づかせるかが勝負なのだ。大切なのはおのれの独自性・独創性だ。客観から乖離（かいり）しすぎれば主観は奇矯になるが、客観に従属させる主観に到達できれば、それが大音楽家らしい演奏の証明になる。フルトヴェングラーの唯一無二性が奇矯でなく偉大と認識されてきた所以であろう。

ところが第1次世界大戦後、特に1920年代に入ると、欧州の美的思潮は大きく変容する。作曲家なら近衛も新交響楽団の演奏会で紹介に努めたストラヴィンスキーや Hindemith やクルト・ヴァイル、あるいは山田耕筰が日本にいち早く紹介したプロコフィエフやショスタコーヴィチなどが体现したものが、1920年代から1930年代にかけての新しい気分だった。言葉にすれば新古典主義や新即物主義である。時代の変わり目にストラヴィンスキーの発した名言が「バッハに帰れ」だ。主観的であるより客観的であれ。情緒的であるより論理的であれ。音楽家は芸術家であるよりも科学者や技術者に近づいてゆくべきだ。作曲なら、厚ぼったく装飾的であるよりも、薄く明澄にすべてが見通せるように。演奏なら、恣意的な揺れを排して、機械仕掛けのように厳格に。とにかくドライにシャープに合理的に。近代的な力を忘れずに。

そこには、第1次世界大戦の実質的勝利者が、欧州の歴史や伝統のしがらみから自由で、その分、安っぽくも思われがちだった米国のビジネス・ライクでモダンな文明であると世界的に理解されたことが、とても大きく作用してい

る。欧州の文化芸術が積み重ね、指揮者なら、フルトヴェングラーが戦間期になお最もよく体现して、独自に発達させ、近衛をも惹きつけていた、濃厚な灰汁（あじ）のようなものは、フルトヴェングラーの一世一代の芸であって、1920年代や1930年代の時代精神の骨の部分をかたちづくる普遍的な傾向にはなりえまい。当時の理解であった。その証拠に、あらゆる面で世界の主役に躍り出た米国において、これぞモダンだと愛された指揮者は、フルトヴェングラーではなかった。アルトゥーロ・トスカニーニだった。

トスカニーニを継ぐ者

トスカニーニは1867年生まれで、フルトヴェングラーよりも19歳も年上。第1次世界大戦が終わった1918年には、もう50代である。19世紀のうちに芸風ができあがっている。いかにも旧世代だ。ところが欧州でも米国でも熱狂的に支持された。理由はいろいろ考えられよう。が、音楽面から言えば、トスカニーニは、オペラ指揮者、特にヴェルディ振りとして、押しの強く前進的なイタリア歌劇のスタイルに自らを一体化させ、ベートーヴェンだろうがドビュッシーだろうが、どぎつくしごくようにキリキリと振り抜くのだ。その芸風が、第1次世界大戦後の、あらゆる虚飾を取り去ってハードボイルドにゆくのをやとす新時代の感性と、完璧に共振してしまったのだろう。日本で言えば明治維新の頃に生まれた老匠が、第1次世界大戦後の青年の理想とつながってしまった。

そして、「フルトヴェングラー派・主観派・ロマン派」の近衛の後釜になったローゼンストックは、典型的な「トスカニーニ派・客観派・新古典派」だった。若き彼は、トスカニーニを世界最高の

模範的指揮者と仰ぎ、ついに1924年の夏、ミラノ・スカラ座に押しかけ、大巨匠のリハーサルも本番も聴いた。ミラノ・スカラ座管弦楽団の演奏会で、曲目はハイドンの《交響曲第101番「時計」》、ドビュッシーの《交響詩「海」》、レスピーギの同じく《交響詩「ローマの松」》。トスカニーニの筋肉質の演奏スタイルがよく発揮される十八番のプログラムである。

ローゼンストックは、このときこそがその後の指揮生活を貫く最高の学びの時間であったと回想している。もちろんただ聴いて帰ってきたというのではない。やはりトスカニーニを崇拜した指揮者、フリッツ・ブッシュから大巨匠を紹介され、そこで弟子入りしたわけではないけれど（すでにローゼンストックはいっぱしの青年指揮者だった）、以来トスカニーニのもとに出入りし、教^しえを請う関係になった。さらに言うと、ローゼンストックが1920年代から1930年代にかけて近しく接し、影響された音楽家には、ブッシュのほか、オートー・クレンペラー、フリッツ・ライナー、ジョージ（ゲオルク）・セル、ワルター・ギーゼキングなどの名をあげられるだろう。新古典主義的な範疇で考えられる人々である。ローゼンストックとは何^うかが窺^うか知れてくるだろう。

新古典主義の系譜

近衛からローゼンストックへ。この転換は、ここでさらに確認すれば、1920・1930年代の一般的演奏史や新交響楽団史の文脈だけでとらえて済むものではない。ローゼンストックが東京で新交響楽団から日本交響楽団へと呼び名^{へんせん}の変遷してゆくオーケストラを、トスカニーニがニューヨークでNBC交響楽団をしごくように、演奏美学的にもトスカニーニと同傾向に鍛

え抜いた。その後、日本交響楽団は戦後しばらくしてNHK交響楽団と名乗るようになり、1954（昭和29）年にひとつの画期を迎えた。ヘルベルト・フォン・カラヤンの客演である。夢としてはカラヤンをたびたび招いて音楽監督になってもraitたいくらいだが、現実はその行かないわけだから、1957（昭和32）年に今度はベルリン・フィルハーモニー管弦楽団を率いて来日したカラヤンの推薦もあって、そのときカラヤンの副指揮者として同行し、カラヤン流を熟知するウィルヘルム・シュヒターを、1959（昭和34）年から常任指揮者として招く。シュヒターはオーケストラをしごき抜き、NHK交響楽団は1960（昭和35）年の世界一周演奏旅行を成功させるに至る。

要するにそこにはずうっとカラヤンの影^{かげ}が被^かさっているのだけれど、ではカラヤンとは何者かと言えば、フルトヴェングラーのスタイルに反発してトスカニーニに傾倒した音楽家ではないか。カラヤンはローゼンストックよりも13年下になる。ということは、カラヤンの影はトスカニーニの影に通じ、ローゼンストックとシュヒターは、単に厳しいしごき屋というだけでなく、演奏美学的に無関係でない。また、NHK交響楽団の歴史的体質として指摘できるだろう一種の機能主義は、ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団にひとつの模範を求めているのだろうが、少なくともカラヤン時代のそのオーケストラのモデルがトスカニーニとNBC交響楽団にそれなりにあるとすれば、NHK交響楽団をトスカニーニの引力圏に引き込んで語る意味はやはりあると思う。

ドイツを逃れて日本へ

さて、ここまでジョセフ・ローゼンストックと表記してきた近衛の後釜は、戦前・戦中の日本で

はヨーゼフ・ローゼンシュトックで通っていた。むしろ前者は英語風、後者はドイツ語風に、同じ綴り^{つづ}を読んだものである。日本で英語風に改められたのは戦後のことだ。いったいどうなっているのか。ドイツ人なのか、英米人なのか。民族的にはどちらでもない。彼は1895年に生まれ、1985年に亡くなった。生地はポーランドのクラクフ。しかし民族的にはポーランド人でもない。ユダヤ人である。ウクライナやベラルーシやポーランドにかつてはとても大勢いて、酷薄な目に遭^あわされがちだった東方のユダヤ人の家系だ。1895年当時のクラクフはオーストリア・ハンガリー二重帝国の一部だったから、その帝国の国民として生まれたことになる。帝国の主要言語はドイツ語。クラクフのユダヤ人にもドイツ風に名乗っている人々がいて、ローゼンシュトック家もそうであった。

ヨーゼフ・ローゼンシュトック(ここから次回以降も当分そう表記する)は、幼くしてピアノの才を発揮し、ウィーンに出てピアニストを目指したが、ちょうどその頃が第1次世界大戦である。砲兵士官として軍務に服し、その中断のせいかどうか、ピアニスト一本でなく、作曲にも比重をかけてゆくようになった。作曲の師はフランツ・シュレーカーである。勝負作として世に問うたのは《ピアノと管弦楽のための交響的協奏曲》。第1次世界大戦の終わった2年後の1920年に、ウィーンで作曲者の独奏、セルの指揮により初演され、好評を得、このコンチェルトはギーゼキングのレパートリーにもなる。師のシュレーカーが同年、ウィーンからベルリンに移ると、ローゼン

シュトックも付いてゆく。戦後のベルリンで作曲家としてさらに道を切り開くつもりだったのだろう。が、このあたりから指揮者に化け始める。まずブッシュの率いるシュトゥットガルト歌劇場で副指揮者に。ついでセルの後継としてダルムシュタット歌劇場の首席指揮者を経て音楽総監督に。トスカニーニに傾倒するのはこの頃からだ。1927年からはクレンペラーの後を襲ってウィースバーデン歌劇場を、そのあとはマンハイム国立歌劇場を率い、米国やソ連でも指揮し、1933年にはベルリン・ユダヤ文化協会管弦楽団でポストを得る。が、ときはちょうどヒトラーの政権獲得期。ユダヤ人音楽家の活動範囲は徐々に狭められてゆく。

1935年頃、ローゼンシュトックはついにドイツで行き詰まる。トスカニーニに相談し、米国に行こうかとも考える。が、仲間が大勢逃げ出している米国に果たして自分に相応しい仕事が残っているか。そのとき彼は新交響楽団が新しい指揮者を探していることを知る。打楽器奏者・小森宗太郎の証言によれば、ローゼンシュトックは自ら売り込んできたという。

誰なんだ、この人は?——東京で身元調べが始まった。

文 | 片山杜秀(かたやま もりひで)

思想史研究者、音楽評論家。慶應義塾大学法学部教授。2008年、『音盤考現学』『音盤博物誌』で吉田秀和賞、サントリー学芸賞を受賞。『クラシックの核心』『ゴジラと日の丸』『近代日本の右翼思想』『未完のファシズム』『見果てぬ日本』『尊皇攘夷』『大楽必易』ほか著書多数。

2024年10月定期公演のプログラムについて

公演企画担当者から

指揮のテクニックや解釈といった次元を超えて、存在そのものが放つオーラでオーケストラをまとめ、唯一無二の演奏を引き出す――。桂冠名誉指揮者ヘルベルト・ブロムシュテットは今や、そのような領域に到達したと言うべきだろう。

去年の来日中止は、直前の体調不良による苦渋の決断だった。その後ヨーロッパでも、出演とキャンセルが繰り返され、今年の共演も100%確かとは言えない状況だ。だがマエストロの意欲は一向に衰えていない。生涯にわたり探求を続けてきた音楽家の旅路は、果たしてどこに行き着くのか。誰もがそれを見届けたいと願っている。

揺るぎない信仰とともに生きる
ブロムシュテットのメッセージが
込められたプログラム

[Aプログラム]は、20世紀前半のバリで活躍したオネゲルの《交響曲第3番「典礼風」》と、ブラームス《交響曲第4番》。

オネゲルの交響曲には、各楽章に〈怒りの日〉〈深い淵から〉〈われらに安らぎを与えたまえ〉という、カトリックの典礼から取られた副題がついている。破壊的な第1楽章と、平穏な美しさの第2楽章がコントラストをなし、第3楽章ではもう一度、暴力と平和の葛藤が繰り返される。

曲の完成は、第2次世界大戦直後の1946年。時代背景を考えると、理不尽な蛮行を乗り越え、希望に至る道筋を描いたものととらえることができよう。

一方のブラームスの交響曲では、第4楽章のパッサカリアの主題に、バッハのコラールが用いられている。コラールの歌詞は「苦難に満ちた私の日々を、神は喜びに変えてくださる」というもので、これがオネゲル作品に呼応することは明らかである。

2曲の組み合わせには、揺るぎない信仰とともに生きるブロムシュテットの強いメッセージが込められている。

オーソドックスな形式に
意外さがちりばめられた
ベルワルド《交響曲第4番》

北欧の音楽を世界に広めたことは、ブロムシュテットの大きな功績のひとつと言ってよい。

[Bプログラム]前半の主役は、ソロを聴かせる木管楽器。シベリウス《トゥオネラの白鳥》ではイングリッシュ・ホルンが、ニルセンの協奏曲ではクラリネットが活躍する。

マエストロはかつて、ニルセンの作風を「まじめで気品があり、独自のユーモアを備えている」と評したが、そうした特徴は、最晩年の作品で

ある《クラリネット協奏曲》にも、典型的に表れているように思われる。首席奏者の伊藤圭がソリストを務める。

ベルワルドは19世紀スウェーデンの作曲家。4つの交響曲は、ウィーンで過ごした40代後半にまとめて書かれた。《交響曲第4番》には、当初“Sinfonie naïve”の副題がつけられたが、これは“天真爛漫な交響曲”といった意味合いを持つ。この言葉通り、形式的にはオーソドックスなのに、意外性に富んだ曲の展開が興味を引く。

ベートーヴェンという“高み”を目指した シューベルト集大成の交響曲2作

ブロムシュテットの指揮者人生において、シューベルトは常に大切な作曲家だった。

[Cプログラム]は、最高傑作に数えられる2つの交響曲、《第7番「未完成」》と《第8番「ザ・グレート」》。

マエストロによれば、シューベルトの最大の特徴は「インスピレーションと知性を合わせ持つ点」にある。一見シンプルに書かれているようでいて、掘り下げれば掘り下げほど、新しい発見がもたらされる。ベートーヴェンという高みを目指し、スケールの大きな交響曲を書くために、惜しみない努力を続けた天才の集大成が、これらの2曲である。

N響とブロムシュテットにとって、おそらくこれがシューベルトを取り上げる最後の機会。演奏の面でも、集大成と呼ぶべきものになるはずだ。

長年スコアに真摯に向き合うことを信条としてきたブロムシュテットだが、近年スコア以上に“人間”に興味を抱くようになったという。奏者はもちろん、すべての聴衆と音楽の喜びを分かち合えることが、97歳のマエストロにとって、生涯現役を続けるいちばんの理由なのだろう。

[西川彰一／NHK交響楽団 芸術主幹]

A 10/19 土 6:00pm
10/20 日 2:00pm

NHKホール

オネゲル／交響曲 第3番「典礼風」
ブラームス／交響曲 第4番 ホ短調 作品98
指揮：ヘルベルト・ブロムシュテット



B 10/10 木 7:00pm
10/11 金 7:00pm

サントリーホール

シベリウス／交響詩「4つの伝説」作品22—「トゥオネラの白鳥」
ニルセン／クラリネット協奏曲 作品57
ベルワルド／交響曲 第4番 変ホ長調「ナイヴ」
指揮：ヘルベルト・ブロムシュテット
クラリネット：伊藤 圭(N響首席クラリネット奏者)



C 10/25 金 7:00pm
10/26 土 2:00pm

NHKホール

シューベルト／交響曲 第7番 口短調 D. 759「未完成」
シューベルト／交響曲 第8番 ハ長調 D. 944「ザ・グレート」
指揮：ヘルベルト・ブロムシュテット



チケットのご案内(定期公演 2024年9月～2025年6月)

定期会員券

毎回同じ座席をご用意。1回券と比べて1公演あたり10～44%お得です！（一般料金の場合。ユースチケットでは最大57%お得です。割引率は公演や券種によって異なります）

発売開始日 (10:00amからの受付)	年間会員券、シーズン会員券(Autumn)	2024年7月7日[日](定期会員先行)／2024年7月15日[月・祝](一般)
	シーズン会員券(Winter)	2024年10月10日[木](定期会員先行)／2024年10月15日[火](一般)
	シーズン会員券(Spring)	2025年2月13日[木](定期会員先行)／2025年2月19日[水](一般)

料金(税込)

年間会員券		S	A	B	C	D
Aプログラム(9回)	一般	¥76,500(¥8,500)	¥65,025(¥7,225)	¥49,725(¥5,525)	¥41,310(¥4,590)	¥32,895(¥3,655)
	ユースチケット	¥38,250(¥4,250)	¥30,600(¥3,400)	¥23,715(¥2,635)	¥19,503(¥2,167)	¥11,475(¥1,275)
Bプログラム(9回)	一般	¥91,800(¥10,200)	¥76,500(¥8,500)	¥61,200(¥6,800)	¥49,725(¥5,525)	¥42,075(¥4,675)
	ユースチケット	¥45,900(¥5,100)	¥38,250(¥4,250)	¥30,600(¥3,400)	¥24,858(¥2,762)	¥21,033(¥2,337)
Cプログラム(8回)	一般	¥68,000(¥8,500)	¥57,800(¥7,225)	¥44,200(¥5,525)	¥36,720(¥4,590)	¥29,240(¥3,655)
	ユースチケット	¥34,000(¥4,250)	¥27,200(¥3,400)	¥21,080(¥2,635)	¥17,336(¥2,167)	¥10,200(¥1,275)

シーズン会員券		S	A	B	C	D
Aプログラム(3回)	一般	¥26,850(¥8,950)	¥22,824(¥7,608)	¥17,454(¥5,818)	¥14,499(¥4,833)	¥11,547(¥3,849)
Cプログラム [Autumn/Winter](3回)	ユースチケット	¥13,425(¥4,475)	¥10,740(¥3,580)	¥8,325(¥2,775)	¥6,849(¥2,283)	¥4,029(¥1,343)
Cプログラム[Spring] (2回)	一般	¥17,900(¥8,950)	¥15,216(¥7,608)	¥11,636(¥5,818)	¥9,666(¥4,833)	¥7,698(¥3,849)
	ユースチケット	¥8,950(¥4,475)	¥7,160(¥3,580)	¥5,550(¥2,775)	¥4,566(¥2,283)	¥2,686(¥1,343)

()内は1公演あたりの単価
※本シーズンよりD席のみ設定されていた「ユースチケット会員券」を、全席種(S～D)に拡大しました。
※本シーズンより定期会員券の料金を改定させていただきます。何卒ご了承のほどお願い申し上げます。

1回券

公演ごとにチケットをお買い求めいただけます。料金は公演によって異なります。各公演の情報をご覧ください。

発売開始日 (10:00amからの受付)	9・10・11月	2024年7月31日[水](定期会員先行)／2024年8月4日[日](一般)
	12・1・2月	2024年10月17日[木](定期会員先行)／2024年10月23日[水](一般)
	4・5・6月	2025年2月26日[水](定期会員先行)／2025年3月2日[日](一般)

※本シーズンより1回券の料金を改定させていただきます。何卒ご了承のほどお願い申し上げます。

ユースチケット

N響では、若い世代の方にオーケストラを身近に感じていただくことを願って、お得な「ユースチケット」を設けています。
詳しくはN響ホームページをご覧ください。※初回ご利用時に年齢確認のための「ユース登録」が必要となります。

ユース世代の方へのお得なチケットが、さらに使いやすく！

対象年齢を拡大
2024年7月の主催公演から対象年齢を「29歳以下」に拡大しました

定期会員券の対象席種を拡大
「S席～D席の全席種」に拡大しました

お申し込み

WEBチケットN響
https://nhkso.pia.jp

N響ガイド | TEL 0570-02-9502
営業時間：10:00am～5:00pm/定休日：土・日・祝日
●東京都内での主催公演開催日は曜日に関わらず10:00am～開演時刻まで営業
●発売初日の土・日・祝日は10:00am～3:00pmの営業 ●電話受付のみの営業

※やむを得ない理由で出演者や曲目等が変更となる場合や、公演が中止となる場合がございます。公演中止の場合をのぞき、チケット代金の払い戻しはいたしません。

Please follow us on

N響ニュースレター

最新情報をメールでお届けします。
WEBチケットN響の「利用登録」からご登録ください。

2024-25定期公演プログラム

2024 09	A	第2016回 9/14土 6:00pm 9/15日 2:00pm	ブルックナー 芸術の金字塔(第8番)で新シーズン開幕 ブルックナー生涯200年 ブルックナー／交響曲 第8番 ハ短調(初稿/1887年)	一般 S ¥11,000 A ¥9,500 B ¥7,600 C ¥6,000 D ¥5,000 E ¥3,000	ユースチケット S ¥5,500 A ¥4,500 B ¥3,500 C ¥2,800 D ¥1,800 E ¥1,400
		NHKホール	指揮:ファビオ・ルイーゼ		
		第2017回 9/19木 7:00pm 9/20金 7:00pm	ルイーゼと遡る ドイツ・オーストリア 王道の系譜 シューベルト／イタリア風序曲 第2番 ハ長調 D. 591 シューマン／ピアノ協奏曲 イ短調 作品54 ベートーヴェン／交響曲 第7番 イ長調 作品92 指揮:ファビオ・ルイーゼ ピアノ:エレーヌ・グリモー	一般 S ¥12,000 A ¥10,000 B ¥8,000 C ¥6,500 D ¥5,500	ユースチケット S ¥6,000 A ¥5,000 B ¥4,000 C ¥3,250 D ¥2,750
2024 10	C	第2018回 9/27金 7:00pm 9/28土 2:00pm	英国で評判の《白鳥の湖》を尾高忠明がN響で初披露 チャイコフスキー／ロココ風の主題による変奏曲 作品33(フィッツェンハーゲン版)* チャイコフスキー／バレエ音楽「白鳥の湖」作品20(抜粋) 指揮:尾高忠明 チェロ:辻本 玲(N響首席チェロ奏者)*	一般 S ¥10,000 A ¥8,500 B ¥6,500 C ¥5,400 D ¥4,300 E ¥2,200	ユースチケット S ¥5,000 A ¥4,000 B ¥3,100 C ¥2,550 D ¥1,500 E ¥1,000
		NHKホール			
		第2020回 10/19土 6:00pm 10/20日 2:00pm	オネゲルとブラームスの暗き情熱の渦に身をゆだねる オネゲル／交響曲 第3番「典礼風」 ブラームス／交響曲 第4番 ホ短調 作品98	一般 S ¥11,000 A ¥9,500 B ¥7,600 C ¥6,000 D ¥5,000 E ¥3,000	ユースチケット S ¥5,500 A ¥4,500 B ¥3,500 C ¥2,800 D ¥1,800 E ¥1,400
2024 11	B	第2019回 10/10木 7:00pm 10/11金 7:00pm	プロムシュテットが贈る北欧音楽の花東 シベリウス／交響詩「4つの伝説」作品22―「トゥオネラの白鳥」 ニルセン／クラリネット協奏曲 作品57 ベルワルド／交響曲 第4番 変ホ長調「ナイーヴ」 指揮:ヘルベルト・プロムシュテット クラリネット:伊藤 圭(N響首席クラリネット奏者)	一般 S ¥12,000 A ¥10,000 B ¥8,000 C ¥6,500 D ¥5,500	ユースチケット S ¥6,000 A ¥5,000 B ¥4,000 C ¥3,250 D ¥2,750
		サントリーホール			
		第2021回 10/25金 7:00pm 10/26土 2:00pm	プロムシュテットに導かれて挑む シューベルト最高峰の交響曲2作 シューベルト／交響曲 第7番 口短調 D. 759「未完成」 シューベルト／交響曲 第8番 ハ長調 D. 944「ザ・グレート」	一般 S ¥11,000 A ¥9,500 B ¥7,600 C ¥6,000 D ¥5,000 E ¥3,000	ユースチケット S ¥5,500 A ¥4,500 B ¥3,500 C ¥2,800 D ¥1,800 E ¥1,400
2024 11	A	第2022回 11/9土 6:00pm 11/10日 2:00pm	山田和樹 N響定期に凱旋! お家芸のレパートリーを披露 ルーセル／バレエ音楽「パッカスとアリアーヌ」作品43―組曲 第1番 バルトーク／ピアノ協奏曲 第3番 ラヴェル／優雅で感傷的なワルツ ドビュッシー／管弦楽のための「映像」―「イペリア」 指揮:山田和樹 ピアノ:フランチェスコ・ビエモンテージ	一般 S ¥10,000 A ¥8,500 B ¥6,500 C ¥5,400 D ¥4,300 E ¥2,200	ユースチケット S ¥5,000 A ¥4,000 B ¥3,100 C ¥2,550 D ¥1,500 E ¥1,000
		NHKホール			
		第2024回 11/21木 7:00pm 11/22金 7:00pm	透徹した音楽性が際立つスロボデニューク 母国ロシアの作品で定期初登場 チャイコフスキー／ヴァイオリン協奏曲 二長調 作品35 プロコフィエフ／バレエ音楽「石の花」―「銅山の女王」「結婚組曲」 ストラヴィンスキー／3楽章の交響曲 指揮:ディマ・スロボデニューク ヴァイオリン:ニキータ・ポリノグレスキー	一般 S ¥12,000 A ¥10,000 B ¥8,000 C ¥6,500 D ¥5,500	ユースチケット S ¥6,000 A ¥5,000 B ¥4,000 C ¥3,250 D ¥2,750
2024 11	C	第2023回 11/15金 7:00pm 11/16土 2:00pm	世界を席巻するオロスコ・エストラダ 満を持してN響初登場 ワーグナー／歌劇「タンホイザー」序曲 ヴァインベルク／トランペット協奏曲 変ロ長調 作品94 ショスタコヴィッチ／交響曲 第5番 二短調 作品47 指揮:アンドレス・オロスコ・エストラダ トランペット:ラインホルト・フリードリヒ	一般 S ¥10,000 A ¥8,500 B ¥6,500 C ¥5,400 D ¥4,300 E ¥2,200	ユースチケット S ¥5,000 A ¥4,000 B ¥3,100 C ¥2,550 D ¥1,500 E ¥1,000
		NHKホール			

		NHKホール		サントリーホール		NHKホール	
		A		B		C	
		開場5:00pm 開演6:00pm 開場1:00pm 開演2:00pm		開場6:20pm 開演7:00pm 開場6:20pm 開演7:00pm		開場6:00pm 開演7:00pm 開場1:00pm 開演2:00pm	
2024 12	A	第2025回		ドイツ・ロマン主義の馥郁たる香気に包まれる シェーンベルク生誕150年		一般 ユースチケット S ¥11,000 S ¥5,500 A ¥9,500 A ¥4,500 B ¥7,600 B ¥3,500 C ¥6,000 C ¥2,800 D ¥5,000 D ¥1,800 E ¥3,000 E ¥1,400	
		11/30 土 6:00pm 12/1 日 2:00pm		ワーグナー／楽劇「ドリスタンとイゾルデ」―「前奏曲と愛の死」 R. シュトラウス／「ばらの花輪」作品36-1*、「なつかしいおもかげ」作品48-1*、 「森の喜び」作品49-1*、「心安らかに」作品39-4*、「あすの朝」作品27-4* シェーンベルク／交響詩「ペレアスとメリザンド」作品5			
		※12月定期公演Aプログラム1日目は 11月に開催いたします。		指揮：ファビオ・ルイージ ソプラノ：クリスティアーネ・カルク*			
		NHKホール					
2025 01	B	第2026回		ルイージが屈指の名曲で握り起こす スラヴ音楽の魅力 スメタナ／歌劇「売られた花嫁」序曲 ラフマニノフ／ピアノ協奏曲 第3番 ニ短調 作品30 ムソルグスキー(ラヴェル編)／組曲「展覧会の絵」		一般 ユースチケット S ¥12,000 S ¥6,000 A ¥10,000 A ¥5,000 B ¥8,000 B ¥4,000 C ¥6,500 C ¥3,250 D ¥5,500 D ¥2,750	
		12/5 木 7:00pm 12/6 金 7:00pm		指揮：ファビオ・ルイージ ピアノ：ネルソン・ゲルナー			
		サントリーホール					
	C	第2027回		《一千人の交響曲》に続く ルイージ&N響の「ファウスト」シリーズ リスト／交響詩「タッソー」 リスト／ファウスト交響曲*		一般 ユースチケット S ¥13,000 S ¥6,500 A ¥11,000 A ¥5,200 B ¥8,500 B ¥4,000 C ¥7,000 C ¥3,500 D ¥5,600 D ¥2,000 E ¥3,500 E ¥1,700	
2025 01		12/13 金 7:00pm 12/14 土 2:00pm		指揮：ファビオ・ルイージ テノール：ジェームズ・マッコークル* 男声合唱：東京オペラシンガーズ*			
		NHKホール					
	A	第2028回		ソビエフが《レニングラード交響曲》に万感の思いを込める ショスタコヴィチ／交響曲 第7番 ハ長調 作品60「レニングラード」		一般 ユースチケット S ¥11,000 S ¥5,500 A ¥9,500 A ¥4,500 B ¥7,600 B ¥3,500 C ¥6,000 C ¥2,800 D ¥5,000 D ¥1,800 E ¥3,000 E ¥1,400	
		1/18 土 6:00pm 1/19 日 2:00pm		指揮：トゥガン・ソビエフ			
2025 02		NHKホール					
	B	第2030回		音の魔術師のタクトが紡ぎだす 東欧の情緒に身をゆだねる ムソルグスキー(リャドフ編)／ 歌劇「ソロチンツィの市」―「序曲」「ゴバック」 バルトーク／ヴァイオリン協奏曲 第2番 ドヴォルザーク／交響曲 第8番 ト長調 作品88		一般 ユースチケット S ¥12,000 S ¥6,000 A ¥10,000 A ¥5,000 B ¥8,000 B ¥4,000 C ¥6,500 C ¥3,250 D ¥5,500 D ¥2,750	
		1/30 木 7:00pm 1/31 金 7:00pm		指揮：トゥガン・ソビエフ ヴァイオリン：郷古 廉(N響第1コンサートマスター)			
		サントリーホール					
2025 02	C	第2029回		世紀を超えて受け継がれる“古典”の精神 ストラヴィンスキー／組曲「フルチネラ」 ブラームス／交響曲 第1番 ハ短調 作品68		一般 ユースチケット S ¥11,000 S ¥5,500 A ¥9,500 A ¥4,500 B ¥7,600 B ¥3,500 C ¥6,000 C ¥2,800 D ¥5,000 D ¥1,800 E ¥3,000 E ¥1,400	
		1/24 金 7:00pm 1/25 土 2:00pm		指揮：トゥガン・ソビエフ			
		NHKホール					
	A	第2031回		チェコが生んだ新時代の巨匠ボベルカがN響デビュー ツェムリンスキー／シンフォニエッタ 作品23 R. シュトラウス／ホルン協奏曲 第1番 変ホ長調 作品11 ドヴォルザーク／交響詩「のぼと」作品110 ヤナーチェク／シンフォニエッタ		一般 ユースチケット S ¥10,000 S ¥5,000 A ¥8,500 A ¥4,000 B ¥6,500 B ¥3,100 C ¥5,400 C ¥2,550 D ¥4,300 D ¥1,500 E ¥2,200 E ¥1,000	
2025 02		2/8 土 6:00pm 2/9 日 2:00pm		指揮：ベトル・ボベルカ ホルン：ラデク・バボラーク			
		NHKホール					
	B	第2032回		世界の音楽界が熱視線を注ぐ 若き巨匠によるドイツ・プログラム モーツァルト／アリア「私は行く、だがどこへ」K. 583*、 アリア「大いなる魂と高貴な心は」K. 578*、 交響曲 第25番 ト短調 K. 183、レチタティーヴォとアリア「私のうるわし い恋人よ、さようならーとどまって下さい、ああいい人よ」K. 528* シューマン／交響曲 第1番 変ロ長調 作品38「春」		一般 ユースチケット S ¥12,000 S ¥6,000 A ¥10,000 A ¥5,000 B ¥8,000 B ¥4,000 C ¥6,500 C ¥3,250 D ¥5,500 D ¥2,750	
		2/13 木 7:00pm 2/14 金 7:00pm		指揮：ベトル・ボベルカ メゾ・ソプラノ：エマ・ニコロフスカ*			
2025 02		サントリーホール					
	C	第2033回		下野竜也が誘うオペレッタ名旋律の世界 スッペ／喜歌劇「軽騎兵」序曲 サン・サーンス／ヴァイオリン協奏曲 第3番 口短調 作品61 スッペ／喜歌劇「詩人と農夫」序曲 オフエンバック(ロザンタール編)／バレエ音楽「バリの喜び」(抜粋)		一般 ユースチケット S ¥10,000 S ¥5,000 A ¥8,500 A ¥4,000 B ¥6,500 B ¥3,100 C ¥5,400 C ¥2,550 D ¥4,300 D ¥1,500 E ¥2,200 E ¥1,000	
		2/21 金 7:00pm 2/22 土 2:00pm		指揮：下野竜也 ヴァイオリン：三浦文彰			
		NHKホール					

2025 04	A	第2034回 4/12土 6:00pm 4/13日 2:00pm NHKホール	ベルリオーズとプロコフィエフ 通底するテーマは「さすらい人」 ベルリオーズ／交響曲「イタリアのハロルド」* プロコフィエフ／交響曲 第4番 ハ長調 作品112(改訂版／1947年) 指揮:パーヴォ・ヤルヴィ ヴィオラ:アントワヌ・タメスティ*	一般 S ¥11,000 A ¥9,500 B ¥7,600 C ¥6,000 D ¥5,000 E ¥3,000	ユースチケット S ¥5,500 A ¥4,500 B ¥3,500 C ¥2,800 D ¥1,800 E ¥1,400
	B	第2035回 4/17木 7:00pm 4/18金 7:00pm サントリーホール	《春の祭典》に続きパーヴォ&N響が贈る ストラヴィンスキー三大バレエ第2弾 ストラヴィンスキー／バレエ音楽「ペトルーシカ」(全曲／1947年版) ブリテン／ピアノ協奏曲 作品13 プロコフィエフ／交響組曲「3つのオレンジへの恋」作品33bis 指揮:パーヴォ・ヤルヴィ ピアノ:ベンジャミン・グローヴナー	一般 S ¥12,000 A ¥10,000 B ¥8,000 C ¥6,500 D ¥5,500	ユースチケット S ¥6,000 A ¥5,000 B ¥4,000 C ¥3,250 D ¥2,750
	C		4月Cプログラムはヨーロッパ公演のため休止させていただきます		
2025 05	A	第2036回 4/26土 6:00pm 4/27日 2:00pm ※5月定期公演Aプログラムは4月に開催いたします。 NHKホール	ヨーロッパ公演に先駆け 勝負曲を定期公演で披露 マラー／フェスティバル2025 演奏曲 マラー／交響曲 第3番 二短調 指揮:ファビオ・ルイージ メゾ・ソプラノ:オレシア・ベトロヴァ 女声合唱:東京オペラシンガーズ 児童合唱:NHK東京児童合唱団	一般 S ¥15,000 A ¥12,500 B ¥10,000 C ¥8,000 D ¥6,500 E ¥4,500	ユースチケット S ¥7,000 A ¥6,000 B ¥5,000 C ¥4,000 D ¥3,000 E ¥2,000
	B	第2037回 5/1木 7:00pm 5/2金 7:00pm サントリーホール	軋みあう“生と死”を超克し その彼方の光へ マラー／フェスティバル2025 演奏曲(マラーのみ) ベルク／ヴァイオリン協奏曲 マラー／交響曲 第4番 ト長調* 指揮:ファビオ・ルイージ ヴァイオリン:諏訪内晶子 ソプラノ:森 麻季*	一般 S ¥12,000 A ¥10,000 B ¥8,000 C ¥6,500 D ¥5,500	ユースチケット S ¥6,000 A ¥5,000 B ¥4,000 C ¥3,250 D ¥2,750
	C	第2038回 5/30金 7:00pm 5/31土 2:00pm NHKホール	オペラ指揮者シュレキーテのR. シュトラウス! N響定期初登場、藤田真史にも注目! シューベルト／「ロザムンデ」序曲 ドホナーニ／童謡(きらきら星)の主題による変奏曲 作品25* R. シュトラウス／歌劇「影のない女」による交響的幻想曲 R. シュトラウス／歌劇「ばらの騎士」組曲 指揮:ギエドレ・シュレキーテ ピアノ:藤田真史*	一般 S ¥10,000 A ¥8,500 B ¥6,500 C ¥5,400 D ¥4,300 E ¥2,200	ユースチケット S ¥5,000 A ¥4,000 B ¥3,100 C ¥2,550 D ¥1,500 E ¥1,000
2025 06	A	第2039回 6/7土 6:00pm 6/8日 2:00pm NHKホール	巨匠が魂を込めて振る チャイコフスキー最後の交響曲 リムスキー・コルサコフ／歌劇「5月の夜」序曲 ラフマニノフ／バガニーニの主題による狂詩曲 作品43* チャイコフスキー／交響曲 第6番 ロ短調 作品74「悲愴」 指揮:ウラディーミル・フェドセーエフ ピアノ:ユリアンナ・アヴデーエワ*	一般 S ¥10,000 A ¥8,500 B ¥6,500 C ¥5,400 D ¥4,300 E ¥2,200	ユースチケット S ¥5,000 A ¥4,000 B ¥3,100 C ¥2,550 D ¥1,500 E ¥1,000
	B	第2040回 6/12木 7:00pm 6/13金 7:00pm サントリーホール	チェリビダッケの直弟子 メナのブルクナー《第6番》 イベール／フルート協奏曲 ブルクナー／交響曲 第6番 イ長調 指揮:ファンホ・メナ フルート:カール・ハインツ・シュツツ	一般 S ¥12,000 A ¥10,000 B ¥8,000 C ¥6,500 D ¥5,500	ユースチケット S ¥6,000 A ¥5,000 B ¥4,000 C ¥3,250 D ¥2,750
	C	第2041回 6/20金 7:00pm 6/21土 2:00pm NHKホール	2000年生まれの超新星 ベルトコスキのマラー《巨人》 コルンゴルト／ヴァイオリン協奏曲 二長調 作品35 マラー／交響曲 第1番 二長調「巨人」 指揮:タルモ・ベルトコスキ ヴァイオリン:ダニエル・ロザコヴィッチ	一般 S ¥10,000 A ¥8,500 B ¥6,500 C ¥5,400 D ¥4,300 E ¥2,200	ユースチケット S ¥5,000 A ¥4,000 B ¥3,100 C ¥2,550 D ¥1,500 E ¥1,000

(料金はすべて税込)

※今後の状況によっては、出演者や曲目等が変更になる場合や、公演が中止となる場合があります。あらかじめご了承ください。

特別公演

12/18 水 7:00pm	12/22 日 2:00pm	ベートーヴェン「第9」演奏会
12/19 木 7:00pm	12/24 火 7:00pm	
12/21 土 2:00pm		

NHK ホール

指揮:ファビオ・ルイージ

ソプラノ:ヘンリエット・ボンデ・ハンセン メゾ・ソプラノ:藤村実穂子

テノール:ステュアート・スケルトン バス・バリトン:トマス・トマソン 合唱:新国立劇場合唱団

ベートーヴェン／交響曲 第9番 ニ短調 作品125「合唱つき」

料金(税込):一般 | S席17,000円 A席13,500円 B席10,000円 C席7,500円 D席5,000円
ユースチケット(29歳以下) | S席8,500円 A席6,750円 B席5,000円 C席3,750円 D席2,500円

チケット発売日:N響定期会員先行発売 | 9月25日(水)10:00am
一般 | 9月29日(日)10:00am

※定期会員は一般料金の10%割引

※12月24日はNHK厚生文化事業団主催のチャリティコンサートです。

主催:NHK・NHK交響楽団／NHK・NHK厚生文化事業団(24日公演のみ)

協賛:みずほ証券株式会社／はごろもフーズ株式会社／株式会社明電舎

お問合せ:N響ガイド TEL (0570)02-9502／NHK厚生文化事業団 TEL (03)3476-5955(24日公演のみ)

12/23 月 7:00pm | かんぽ生命 presents N響第九 Special Concert

サントリーホール

指揮:ファビオ・ルイージ オルガン:中田恵子* ソリスト・合唱はベートーヴェン「第9」演奏会と同じ

バッハ／トッカータとフーガ へ長調 BWV540*

ベートーヴェン／交響曲 第9番 ニ短調 作品125「合唱つき」

料金(税込):一般 | S席20,000円 A席16,500円 B席13,000円 C席9,000円
ユースチケット(29歳以下) | S席10,000円 A席8,200円 B席6,500円 C席4,500円

チケット発売日:N響定期会員先行発売 9月25日(水)10:00am
一般 | 9月29日(日)10:00am

※定期会員は一般料金の10%割引

主催:NHK交響楽団 特別協賛:株式会社かんぽ生命保険 お問合せ:N響ガイド TEL (0570)02-9502

お申し込み

WEBチケットN響

<https://nhkso.pia.jp>



N響ガイド | TEL 0570-02-9502

営業時間:10:00am～5:00pm

定休日:土・日・祝日

●東京都内での主催公演開催日は曜日に関わらず10:00am～開演時刻まで営業

●発売初日の土・日・祝日は10:00am～3:00pmの営業

●電話受付のみの営業

※やむを得ない理由で出演者や曲目等が変更となる場合や、公演が中止となる場合がございます。公演中止の場合をのぞき、チケット代金の払い戻しはいたしません。

各地の公演

10/5(土) 4:00pm | 小山実稚恵 サントリーホール・シリーズ Concerto〈以心伝心〉2024

サントリーホール

指揮: 広上淳一 ピアノ: 小山実稚恵

モーツァルト／ピアノ協奏曲 第27番 変ロ長調 K. 595

ブラームス／ピアノ協奏曲 第1番 二短調 作品15

主催: サントリーホール／AMATI お問い合わせ: サントリーホールチケットセンター TEL (0570) 55-0017／AMATI TEL (03) 3560-3010

10/6(日) 2:00pm | N響ベストクラシックス 広上淳一×小山実稚恵×N響

かつしかシンフォニーヒルズ モーツァルトホール

指揮: 広上淳一 ピアノ: 小山実稚恵

モーツァルト／交響曲 第32番 ト長調 K. 318

モーツァルト／ピアノ協奏曲 第27番 変ロ長調 K. 595

ハイドン／交響曲 第101番 二長調 Hob. I-101「時計」

主催: 葛飾区文化施設指定管理者 お問い合わせ: かつしかシンフォニーヒルズ TEL (03) 5670-2233

10/14(月祝) 4:00pm | オーケストラ・キャラバン NHK交響楽団 富士特別公演

富士市文化会館ロゼシアター 大ホール

指揮: ゲルゲイ・マダラシュ

ピアノ: 高木竜馬

チャイコフスキー／ピアノ協奏曲 第1番 変ロ短調 作品23

チャイコフスキー／交響曲 第4番 ヘ短調 作品36

主催: 公益社団法人日本オーケストラ連盟／NHK交響楽団

助成:  文化庁文化芸術振興費補助金
(舞台芸術等総合支援事業(全国キャラバン))
| 独立行政法人日本芸術文化振興会

お問い合わせ: NHKエンタープライズ中部 TEL (052) 952-7381

10/30(水) 7:00pm | NHK音楽祭2024

NHKホール

指揮: シャルル・デュトワ ピアノ: ニコライ・ルガンスキー

ラヴェル／組曲「マ・メール・ロワ」

ラフマニノフ／ピアノ協奏曲 第2番 ハ短調 作品18

ストラヴィンスキー／バレエ音楽「春の祭典」

主催: NHK／NHKプロモーション 共催: NHK交響楽団 お問い合わせ: ハローダイヤル TEL (050) 5541-8600

11/4(日) 2:00pm | NHK交響楽団 キンボー・イシイ(指揮) 福間洸太郎(ピアノ)

埼玉会館 大ホール

指揮:キンボー・イシイ

ピアノ:福間洸太郎*

ウェーバー(ベルリオーズ編)／舞踏への勧誘 作品65

ショパン／ポーランドの民謡による大幻想曲 作品13*

リスト／死の舞踏*

ビゼー／「カルメン」組曲(キンボー・イシイ版)

主催:(公財)埼玉県芸術文化振興財団 お問い合わせ:SAFチケットセンター TEL (0570)064-939

11/24(日) 4:00pm | NHK交響楽団演奏会 大阪公演

NHK大阪ホール

指揮:ディマ・スロボデニューク

ヴァイオリン:ニキータ・ポリソグレブスキー

チャイコフスキー／ヴァイオリン協奏曲 二長調 作品35

プロコフィエフ／バレエ音楽「石の花」—「銅山の女王」「結婚組曲」

ストラヴィンスキー／3楽章の交響曲

主催:NHK大阪放送局／NHK交響楽団 お問い合わせ:NHK大阪ホール NHKイベントガイド TEL (06)6947-5000

12/8(日) 3:00pm | NHK交響楽団浦安特別公演

浦安市文化会館 大ホール

指揮:ファビオ・ルイージ

ピアノ:ネルソン・ゲルナー

スメタナ／歌劇「売られた花嫁」序曲

ラフマニノフ／ピアノ協奏曲 第3番 二短調 作品30

ムソルグスキー(ラヴェル編)／組曲「展覧会の絵」

主催:(公財)うらやす財団 お問い合わせ:浦安市文化会館 TEL(047) 353-1121

2/2(日) 3:00pm | 第12回 NHK交響楽団いわき定期演奏会

いわき芸術文化交流館アリオス アルバイン大ホール

指揮:トウガン・ソヒエフ

ヴァイオリン:郷古 廉

ムソルグスキー(リャードフ編)／歌劇「ソロチンツィの市」—「序曲」「ゴバック」

バルトーク／ヴァイオリン協奏曲 第2番

ドヴォルザーク／交響曲 第8番ト長調 作品88

主催:いわき芸術文化交流館アリオス お問い合わせ:アリオスチケットセンター TEL(0246) 22-5800

オーチャード定期

横浜みなとみらいホール・大ホール

11/3 日祝 3:30pm

出演者・曲目は11月4日と同じ

主催・お問合せ:Bunkamura TEL (03) 3477-3244

曲目解説執筆者

小味淵彦之(こみぶち ひろゆき)

音楽評論家。関西学院大学および同大学院で音楽学を学ぶ。いずみホール(現・住友生命いずみホール)のステージマネージャーとして数多くの演奏会に携わり、現在豊中市立文化芸術センター総合館長。関西地方を中心に演奏会用の曲目解説を執筆するほか、コンサートのプロデュース、トークも手がける。

高松佑介(たかまつ ゆうすけ)

千葉工業大学未来変革科学部教育センター助教、青山学院大学、一橋大学大学院ほか非常勤講師。専門は19世紀のドイツ・オーストリアの音楽。フランツ・シューベルトの器楽曲における中間楽章に関する論文で博士号を取得。訳書にハンス・ヨアヒム・ヒンリヒセン著『ブルックナー交響曲』。

永井玉藻(ながい たまも)

慶應義塾大学、白百合女子大学、桐朋学園大学ほか非常勤講師。博士(音楽学)。専門は西洋音楽史、特に19～20世紀のフランス音楽。著書に『バレエ伴奏者の歴史——19世紀パリ・オペラ座と現代、舞台裏で働く人々』、共著に『《悪魔のロベール》とパリ・オペラ座——19世紀グランド・オペラ研究』。

(五十音順、敬称略)

Information

新入団

第1ヴァイオリン 東條太河(とうじょう たいが) 2024年9月1日付で入団。

訃報

当団元コントラバス奏者(1959年7月入団)で団友の中 博昭(なか ひろあき)氏が、2024年6月22日に逝去されました。享年93。ここに謹んで哀悼の意を表します。

当団元コントラバス奏者(1960年1月入団)で団友の田中雅彦(たなか まさひこ)氏が、2024年6月24日に逝去されました。享年89。ここに謹んで哀悼の意を表します。

特別支援・特別協力・賛助会員

Corporate Membership

特別支援

岩谷産業株式会社	代表取締役社長 間島 寛
三菱地所株式会社	執行役社長 中島 篤
株式会社 みずほ銀行	頭取 加藤勝彦
公益財団法人 渋谷育英会	理事長 小丸成洋
東日本旅客鉄道株式会社	代表取締役社長 喜勢陽一
東日本電信電話株式会社	代表取締役社長 澁谷直樹
東京海上ホールディングス株式会社	取締役社長 グループCEO 小宮 暁

特別協力

BMW ジャパン	代表取締役社長 長谷川正敏
全日本空輸株式会社	代表取締役社長 井上慎一
ヤマハ株式会社	代表執行役社長 山浦 敦
びあ株式会社	代表取締役社長 矢内 廣

賛助会員

・ 常陸宮	・ 朝日信用金庫 理事長 伊藤康博	・ (有)IL VIOLINO MAGICO 代表取締役 山下智之
・ (株)アートレイ 代表取締役 小森活美	・ 有限責任 あずさ監査法人 理事長 山田裕行	・ (株)インターネットイニシアティブ 代表取締役会長 鈴木幸一
・ 相川直樹	・ アットホーム(株) 代表取締役社長 鶴森康史	・ 内 聖美
・ (株)アイシン 取締役社長 吉田守孝	・ イーソリューションズ(株) 代表取締役社長 佐々木経世	・ 内山貴史
・ (株)アインホールディングス 代表取締役社長 大谷喜一	・ EY新日本有限責任監査法人 理事長 片倉正美	・ SMBC日興証券(株) 代表取締役社長 吉岡秀二
・ 葵設備工事(株) 代表取締役社長 安藤正明	・ (株)井口一世 代表取締役 井口一世	・ SCSK(株) 代表取締役 執行役員 社長 當麻隆昭
・ (株)あ佳音 代表取締役社長 遠山信之	・ 池上通信機(株) 代表取締役社長 清森洋祐	・ (株)NHK アート 代表取締役社長 平田恭佐
・ AXL.BIT(株) 代表取締役 長谷川章博	・ (一財)ITOH 代表理事 伊東忠俊	・ NHK 営業サービス(株) 代表取締役社長 手島一宏
・ アサヒグループホールディングス(株) 代表取締役社長兼CEO 勝木敦志	・ 井村屋グループ(株) 取締役社長 大西安樹	・ (株)NHK エデュケーションル 代表取締役社長 荒木美弥子
・ (株)朝日工業社 代表取締役社長 高須康有		・ (株)NHK エンタープライズ 代表取締役社長 有吉伸人

- ・(学)NHK学園
理事長 | 等々力 健
- ・(株)NHK グローバルメディアサービス
代表取締役社長 | 神田真介
- ・(株)NHK出版
代表取締役社長 | 江口貴之
- ・(株)NHK テクノロジーズ
代表取締役社長 | 山口太一
- ・(株)NHK ビジネスクリエイティブ
代表取締役社長 | 石原 勉
- ・(株)NHK プロモーション
代表取締役社長 | 有吉伸人
- ・(株)NTTドコモ
代表取締役社長 | 前田義晃
- ・(株)NTTファシリティーズ
代表取締役社長 | 松原和彦
- ・ENEOS ホールディングス(株)
代表取締役 社長執行役員 | 宮田知秀
- ・荏原冷熱システム(株)
代表取締役 | 加藤恭一
- ・MN インターファッション(株)
代表取締役社長 | 吉本一心
- ・(株)エレクトク
代表取締役 | 間部恵造
- ・大崎電気工業(株)
代表取締役会長 | 渡辺佳英
- ・大塚ホールディングス(株)
代表取締役社長兼CEO | 樋口達夫
- ・(株)大林組
代表取締役社長 | 蓮輪賢治
- ・オールニッポンヘリコプター(株)
代表取締役社長 | 寺田 博
- ・岡崎悦子
- ・岡崎耕治
- ・小田急電鉄(株)
取締役社長 | 鈴木 滋
- ・陰山建設(株)
代表取締役 | 陰山正弘
- ・カンオ計算機(株)
代表取締役社長CEO兼CHRO
増田裕一
- ・鹿島建設(株)
代表取締役社長 | 天野裕正
- ・(株)加藤電気工業所
代表取締役 | 加藤浩章
- ・(株)金子製作所
代表取締役 | 金子晴房
- ・カルチュア・エンタテインメント(株)
代表取締役 社長執行役員 | 中西一雄
- ・(株)関電工
取締役社長 | 仲摩俊男
- ・(株)かんぽ生命保険
取締役兼代表執行役社長 | 谷垣邦夫
- ・キッコーマン(株)
代表取締役社長CEO | 中野祥三郎
- ・(株)CURIOUS PRODUCTIONS
代表取締役 | 黒川幸太郎
- ・(株)教育芸術社
代表取締役 | 市川かおり
- ・(株)共栄サービス
代表取締役 | 半沢治久
- ・(株)共同通信会館
代表取締役専務 | 梅野 修
- ・(一社)共同通信社
社長 | 水谷 亨
- ・キリンホールディングス(株)
代表取締役会長CEO | 磯崎功典
- ・(学)国立音楽大学
理事長 | 重盛次正
- ・京王電鉄(株)
代表取締役社長 社長執行役員
都村智史
- ・京成電鉄(株)
代表取締役社長 社長執行役員
小林敏也
- ・KDDI(株)
代表取締役社長 | 高橋 誠
- ・(仮)社团 恒仁会
理事長 | 伊藤恒道
- ・(株)構造計画研究所ホールディングス
代表執行役 | 服部正太
- ・(株)コーポレートディレクション
代表取締役 | 小川達大
- ・小林弘信
- ・佐川印刷(株)
代表取締役会長 | 木下宗昭
- ・佐藤弘康
- ・サフラン電機(株)
代表取締役 | 藤崎貴之
- ・(株)サンセイ
代表取締役 | 富田佳佑
- ・サントリーホールディングス(株)
代表取締役社長 | 新浪剛史
- ・(株)ジェイ・ウィル・コーポレーション
代表取締役 | 佐藤雅典
- ・JCOM(株)
代表取締役社長 | 岩木陽一
- ・(株)シグマタシス・ホールディングス
会長 | 富村隆一
- ・(株)ジャパン・アーツ
代表取締役社長 | 二瓶純一
- ・(株)集英社
代表取締役社長 | 廣野真一
- ・(株)小学館
代表取締役社長 | 相賀信宏
- ・(株)商工組合中央金庫
代表取締役社長 | 関根正裕
- ・庄司勇次朗・恵子
- ・ジョンソン・エンド・ジョンソン(株)
- ・(株)白川プロ
代表取締役 | 白川亜弥
- ・(有)新赤坂健康管理協会
代表取締役社長 | 小池 学
- ・信越化学工業(株)
代表取締役社長 | 斉藤恭彦
- ・新菱冷熱工業(株)
代表取締役社長 | 加賀美 猛
- ・(株)スカパーJSAT ホールディングス
代表取締役社長 | 米倉英一
- ・(株)菅原
代表取締役 会長兼社長 | 古江訓雄
- ・スズキ(株)
代表取締役社長 | 鈴木俊宏
- ・住友商事(株)
代表取締役 社長執行役員 CEO
上野真吾
- ・住友電気工業(株)
社長 | 井上 治
- ・セイコーグループ(株)
代表取締役会長兼グループCEO
兼グループCCO | 服部真二
- ・聖徳大学
理事長・学長 | 川並弘純
- ・西武鉄道(株)
代表取締役社長 | 小川周一郎
- ・清和綜合建物(株)
代表取締役社長 | 大串桂一郎
- ・関彰商事(株)
代表取締役会長 | 関 正夫
- ・(株)セノン
代表取締役 | 稲葉 誠
- ・(株)ソニー・ミュージックエンタテインメント
代表取締役社長CEO | 村松俊亮

・損害保険ジャパン(株) 取締役社長 石川耕治	・(株)東京交通会館 取締役社長 興野敦郎	・日本郵政(株) 取締役兼代表執行役社長 増田寛也
・第一三共(株) 代表取締役会長兼CEO 眞鍋 淳	・東信地所(株) 代表取締役 堀川利通	・(株)ニフコ 代表取締役社長 柴尾雅春
・第一生命保険(株) 代表取締役社長 隅野俊亮	・東武鉄道(株) 取締役社長 都筑 豊	・野田浩一
・ダイキン工業(株) 取締役社長 竹中直文	・桐朋学園大学 学長 辰巳明子	・野村ホールディングス(株) 代表執行役社長 奥田健太郎
・大成建設(株) 代表取締役社長 相川善郎	・(株)東北新社 代表取締役社長 小坂恵一	・パナソニック ホールディングス(株) 代表取締役 社長執行役員 グループCEO 楠見雄規
・大日コーポレーション(株) 代表取締役社長兼グループCEO 鈴木忠明	・鳥取末広座(株) 代表取締役 西川八重子	・(株)原田武夫国際戦略情報研究所 代表取締役 原田武夫
・高砂熱学工業(株) 代表取締役社長 小島和人	・(-財)凸版印刷三幸会 代表理事 金子眞吾	・(有)パルフェ 代表取締役 伊藤良彦
・(株)タク 代表取締役 福田浩二	・トヨタ自動車(株) 代表取締役社長 佐藤恒治	・びあ(株) 代表取締役社長 矢内 廣
・(株)竹中工務店 取締役執行役員社長 佐々木正人	・内外施設工業グループホールディングス(株) 代表取締役社長 林 克昌	・(株)フォトロン 代表取締役 瀧水 隆
・田中貴金属工業(株) 代表取締役社長執行役員 田中浩一朗	・中銀グループ 代表 渡辺蔵人	・福田三千男
・田原 昇	・中本光子	・富士通(株) 代表取締役社長 時田隆仁
・チャンネル銀河(株) 代表取締役社長 前田鎮男	・日興アセットマネジメント(株) 会長 西田 豊	・富士通フロンテック(株) 代表取締役社長 渡部広史
・中央日本土地建物グループ(株) 代表取締役社長 三宅 潔	・日鉄興和不動産(株) 代表取締役社長 三輪正浩	・古川宣一
・中外製薬(株) 代表取締役社長 奥田 修	・日東紡績(株) 取締役 代表執行役会長 辻 裕一	・ペプチドリーム(株) 代表取締役社長CEO リード・バトリック
・テルウェル東日本(株) 代表取締役社長 石川 達	・(株)日本アーティスト 代表取締役 幡野菜穂子	・(株)朋栄ホールディングス 代表取締役 清原克明
・(株)電通 代表取締役 社長執行役員 佐野 傑	・日本カイン(株) 取締役社長 小林 茂	・(株)放送衛星システム 代表取締役社長 角 英夫
・(株)テンポブリモ 代表取締役 中村聡武	・(株)日本カストディ銀行 代表取締役社長 土屋正裕	・(公)助放送文化基金 理事長 濱田純一
・東海東京フィナンシャル・ホールディングス(株) 代表取締役会長 石田建昭	・(株)日本国際放送 代表取締役社長 高尾 潤	・ホクト(株) 代表取締役社長 水野雅義
・東海旅客鉄道(株) 代表取締役社長 丹羽俊介	・日本たばこ産業(株) 代表取締役社長 寺島正道	・(株)ポケモン 代表取締役社長 石原恒和
・東急(株) 取締役社長 社長執行役員 堀江正博	・日本運通(株) 代表取締役社長 竹添進二郎	・前田工織(株) 代表取締役社長 前田尚宏
・(株)東急コミュニティー 代表取締役社長 木村昌平	・日本電気(株) 取締役 代表執行役社長兼CEO 森田隆之	・牧 寛之
・(株)東急文化村 代表取締役 嶋田 創	・(-財)日本放送協会共済会 理事長 竹添賢一	・町田優子
	・日本みらいホールディングス(株) 代表取締役社長 安嶋 明	・丸紅(株) 代表取締役社長 柿木真澄

- ・(株)三井住友銀行
頭取 | 福留朗裕
- ・三井住友信託銀行(株)
取締役社長 | 大山西也
- ・三菱商事(株)
代表取締役社長 | 中西勝也
- ・三菱電機(株)
執行役社長 | 漆間 啓
- ・(株)緑山スタジオ・シティ
代表取締役社長 | 永田周太郎
- ・三橋産業(株)
代表取締役会長 | 三橋洋之
- ・三橋洋之
- ・三原穂積
- ・(株)ミロク情報サービス
代表取締役社長 | 是枝周樹
- ・(学)武蔵野音楽学園 武蔵野音楽大学
理事長 | 福井直敬
- ・(株)明治
代表取締役社長 | 松田克也
- ・(株)明電舎
代表取締役 執行役員社長 | 井上晃夫
- ・メットライフ生命保険(株)
代表執行役 会長 社長 最高経営責任者
ディルク・オステイン
- ・(株)目の眼
社主 | 櫻井 恵
- ・(株)モメンタム ジャパン
代表取締役社長 | 三溝広志
- ・森ビル(株)
代表取締役社長 | 辻 慎吾
- ・森平舞台機構(株)
代表取締役 | 森 健輔
- ・山田産業(株)
代表取締役 | 山田裕幸
- ・(株)ヤマハミュージックジャパン
代表取締役社長 | 松岡祐治
- ・ユニオンツール(株)
代表取締役会長 | 片山貴雄
- ・米澤文彦
- ・(株)読売広告社
代表取締役社長 | 菊地英之
- ・(株)読売旅行
代表取締役社長 | 貞広貴志
- ・リコージャパン(株)
代表取締役 社長執行役員 CEO
笠井 徹
- ・料亭 三長
代表 | 高橋千善
- ・(株)リンレイ
代表取締役社長 | 鈴木信也
- ・(有)ルナ・エンタープライズ
代表取締役 | 戸張誠二
- ・ローム(株)
代表取締役社長 社長執行役員
松本 功
- ・YKアクロス(株)
代表取締役社長 | 田渕浩記
- ・YCC(株)
社長 | 中山武之
- ・渡辺敦郎・優子

(五十音順、敬称略)

NHK交響楽団への ご寄付について

NHK交響楽団は多くの方々の貴重なご寄付に支えられて、積極的な演奏活動を展開しております。定期公演の充実をはじめ、著名な指揮者・演奏家の招聘、意欲あふれる特別演奏会の実現、海外公演の実施など、今後も音楽文化の向上に努めてまいりますので、みなさまのご支援をよろしくお願い申し上げます。

「賛助会員」入会のご案内

NHK交響楽団は賛助会員制度を設け、上記の方々にご支援をいただいております。当団の経営基盤を支える大きな柱となっております。会員制度の内容は次の通りです。

■当団は「公益財団法人」として認定されています。

当団は芸術の普及向上を行うことを主目的とする法人として「公益財団法人」の認定を受けているため、当団に対する寄付金は税制上の優遇措置の対象となります。

1. 会費：一口50万円(年間)
2. 期間：入会は随時、年会費をお支払いいただいたときから1年間
3. 入会の特典：『フィルハーモニー』、『年間バンフレット』、『「第9」演奏会プログラム』等にご芳名を記載させていただきます。
N響主催公演のご鑑賞や会場リハーサル見学の機会を設けます。

遺贈のご案内

資産の遺贈(遺言による寄付)を希望される方々のご便宜をお図りするために、NHK交響楽団では信託銀行が提案する「遺言信託制度」をご紹介します(三井住友信託銀行と提携)。相続財産目録の作成から遺産分割手続の実施まで、煩雑な相続手続を信託銀行が有償で代行いたします。まずはN響寄付担当係へご相談ください。

お問い合わせ

公益財団法人 NHK交響楽団「寄付担当係」

TEL：03-5793-8120

みなさまの声をお聞かせください！

インターネットアンケートにご協力ください

ご鑑賞いただいた公演のご感想や、N響の活動に対するみなさまのご意見を、ぜひお寄せください。
ご協力をお願いいたします。

アクセス方法

STEP

1



スマートフォンで右の
2次元コードを読み取る。
またはURLを入力
[https://www.nhkso.or.jp/
enquete.html](https://www.nhkso.or.jp/enquete.html)



STEP

2



開いたリンク先からアンケートサイトに入る

STEP

3



アンケートに答えて(約5分)、
「送信」を押して完了！

ほかにもご意見・ご感想がありましたらお寄せください。

定期公演会場の主催者受付にお持ちいただくか、

〒108-0074東京都港区高輪2-16-49 NHK交響楽団 フィルハーモニー編集までお送りください。

ふりがな		年齢	歳
お名前		TEL	

.....

.....

.....

.....

個人情報の取り扱いについて

ご提供いただいた個人情報は、必要な場合、ご記入者様への連絡のみに使用し、
他の目的に使用いたしません。

NHK SYMPHONY ORCHESTRA, TOKYO

Chief Conductor: Fabio Luisi

Music Director Emeritus: Charles Dutoit

Honorary Conductor Laureate: Herbert Blomstedt

Conductor Laureate: Vladimir Ashkenazy

Honorary Conductor: Paavo Järvi

Permanent Conductors: Tadaaki Otaka, Tatsuya Shimono

Specially Appointed Concertmaster: Fuminori Maro Shinozaki

First Concertmaster: Sunao Goko

Guest Concertmaster: Yosuke Kawasaki

1st Violins

- Shirabe Aoki
- Kyoko Une
- Yuki Oshika
- Ryota Kuratomi
- Ko Goto
- Tamaki Kobayashi
- Toshihiro Takai
- Taiga Tojo
- Yuki Naoi
- Yumiko Nakamura
- Takao Furihata
- Hiroyuki Matsuda
- Haruhiko Mimata
- Nana Miyagawa
- Tsutomu Yamagishi
- Koichi Yokomizo

2nd Violins

- Rintaro Omiya
- ◎ Masahiro Morita
- Toshiyuki Kimata
- Maiko Saito
- Keiko Shimada
- Atsushi Shirai
- Akiko Tanaka
- Kirara Tsuboi
- Yosuke Niwa
- Kazuhiko Hirano
- Yoko Funaki
- Kenji Matano
- Ryuto Murao
- Masaya Yazu
- Yoshikazu Yamada
- Masamichi Yokoshima
- Toshiro Yokoyama
- Yuka Yoneda

- Ayumu Iizuka

Violas

- ◎ Ryo Sasaki
- ◎ Junichiro Murakami
- ☆ Shotaro Nakamura
- Satoshi Ono
- Shigetaka Obata
- Gentaro Sakaguchi
- Mayumi Taniguchi
- Hiroto Tobisawa
- Hironori Nakamura
- Naoyuki Matsui
- Rachel Yui Mikuni
- # Yuya Minorikawa
- Ryo Muramatsu
- Yuji Yamada

Cellos

- ◎ Rei Tsujimoto
- ◎ Ryoichi Fujimori
- Hiroya Ichi
- Yukinori Kobatake
- Miho Naka
- Ken'ichi Nishiyama
- Shunsuke Fujimura
- Koichi Fujimori
- Hiroshi Miyasaka
- Yuki Murai
- Yusuke Yabe
- Shunsuke Yamanouchi
- Masako Watanabe

Contrabasses

- ◎ Shu Yoshida
- Masanori Ichikawa
- Eiji Inagawa
- Jun Okamoto
- Takashi Konno
- Shinji Nishiyama
- Tatsuro Honma
- Yoko Yanai

Flutes

- ◎ Masayuki Kai
- ◎ Hiroaki Kanda
- Maho Kajikawa
- # Junji Nakamura

Oboes

- ◎ Yumi Yoshimura
- Shoko Ikeda
- Izumi Tsuboike
- Hitoshi Wakui

Clarinets

- ◎ Kei Ito
- ◎ Kenji Matsumoto
- Takashi Yamane

Bassoons

- ◎ Hironori Ugajin
- ◎ Kazusa Mizutani
- Yuki Sato
- Keiko Sugawara
- Itaru Morita

Horns

- ◎ Hitoshi Imai
- Naoki Ishiyama
- Yasushi Katsumata
- Hiroshi Kigawa
- Yudai Shoji
- Kazuko Nomiyama

Trumpets

- ◎ Kazuaki Kikumoto
- ◎ Tomoyuki Hasegawa
- Tomoki Ando
- Kotaro Fujii

Eiji Yamamoto

Trombones

- ◎ Hikaru Koga
- ◎ Mikio Nitta
- Ko Ikegami
- Hiroyuki Kurogane
- Takenori Yoshikawa

Tuba

Yukihiro Ikeda

Timpani

- ◎ Toru Uematsu
- ◎ Shoichi Kubo

Percussion

Tatsuya Ishikawa
Hidemi Kuroda
Satoshi Takeshima

Harp

Risako Hayakawa

Stage Manager

Masaya Tokunaga
Daisuke Kurokawa

Librarian

Akane Oki
Hideo Kimura

(◎ Principal, ☆ Acting Principal, ○ Vice Principal, □ Acting Vice Principal, # Inspector)

PROGRAM

A

Concert No.2016

NHK Hall

September

14 (Sat) 6:00pm

15 (Sun) 2:00pm

conductor

Fabio Luisi

concertmaster

Sunao Goko

The 200th Anniversary of Anton Bruckner's Birth

Anton Bruckner

Symphony No. 8 C Minor

(First Version/1887) [93']

- I Allegro moderato
- II Scherzo: Allegro moderato – Trio
- III Adagio: Feierlich langsam,
doch nicht schleppend
- IV Finale: Feierlich, nicht schnell

- This concert will be performed with no intermission.
- All performance durations are approximate.

Artist Profile

Fabio Luisi, conductor



©Yusuke Miyazaki (SEPT)

Fabio Luisi hails from Genoa. He is the Principal Conductor of the Danish National Symphony Orchestra and the Music Director of the Dallas Symphony Orchestra. He first conducted the NHK Symphony Orchestra in 2001, and in September 2022 he became Chief Conductor of the orchestra. He conducted Verdi's *Requiem* in the concert to celebrate his appointment, and Mahler's *Symphonie der Tausend* to commemorate

the orchestra's 2000th subscription concert in December 2023. These two monumental performances have brought him great success. He has presented works of German and Austrian composers such as Beethoven, Brahms, Bruckner and R. Strauss as well as those of Franck and Saint-Saëns, Francophone composers, and with his conducting style full of passion

and poetic sentiment, has captured the hearts of many of audience members. In August 2024, he led the orchestra's Taiwanese tour, and then will also lead a European tour in May 2025, which has been scheduled in conjunction with the Mahler Festival at The Concertgebouw, Amsterdam, to which the NHK Symphony Orchestra has been invited.

He was General Music Director of the Opernhaus Zürich, Principal Conductor of the Metropolitan Opera in New York, Principal Conductor of the Wiener Symphoniker, as well as General Music Director of the Staatskapelle Dresden and the Sächsische Staatsoper, Artistic Director and Principal Conductor of the MDR Sinfonieorchester Leipzig, Music Director of the Orchestre de la Suisse Romande and Chief Conductor of the Tonkünstler Orchester. He is Music Director of the Festival della Valle d'Itria in Martina Franca (Apulia) and has appeared as guest conductor with numerous renowned ensembles, including the Philadelphia Orchestra, the Cleveland Orchestra, the Münchener Philharmoniker, the Filarmonica della Scala, the London Symphony Orchestra, the Royal Concertgebouw Orchestra, and the Saito Kinen Orchestra, while also conducting operas at world's major opera houses. Important recordings include Verdi, Bellini, Schumann, Berlioz, Rachmaninov, Rimsky-Korsakov, Frank Martin, and Franz Schmidt, the largely forgotten Austrian composer. In addition, he has recorded various symphonic poems by Richard Strauss, and a lauded reading of Bruckner's Symphony No. 9 with the Staatskapelle Dresden. His recordings of Wagner's *Siegfried* and *Götterdämmerung* with the Metropolitan Opera won Grammy awards.

A

14 & 15, SEPT. 2024

Program Note | Kumiko Nishi

Anton Bruckner (1824–1896)

Symphony No. 8 C Minor (First Version/1887)

The world has celebrated the 200th birthday of Bruckner at present: the Austrian late-Romantic composer was born on September 4th, 1824 as the eldest son of a schoolmaster who was also a musician. No sooner had the father introduced his child to music, he displayed a remarkable talent. The future symphonist subsequently became a chorister at St. Florian Monastery where he studied music deepening his Catholic faith. He then made a living as a schoolteacher and church organist prior to moving to Vienna in 1868 in his mid-forties. It is only from that moment that most of his representative works including Symphonies No. 2 to No. 9 were penned. The late bloomer had to put up with the cold reception of his works for quite some time until the successful premiere of No. 7 in December 1884 spread his fame far and wide.

Back in July of the same year, Bruckner set to work on No. 8, his next tonal cathedral—his symphonies are often called so due to their large scale, massive sound, meditative moments and frequent general (long) pauses evoking a cathedral's long reverberation. Bruckner completed No. 8 in 1887 and sent the score to the conductor Hermann Levi, a champion of his music. Devastated by Levi's rejection, the composer would greatly revise it to produce the 1890 second version, which was followed by the 1892 edition (based on the second version) for the first publication. Among the different editions issued posthumously, the most frequently performed nowadays is the 1955 one (based on the second version). For today's concert, our

conductor Fabio Luisi chose the rarely-performed 1887 first version that he is deeply versed in. This occasion must reveal to us Bruckner's intact initial conception of the work preceding numerous modifications.

Cast in four movements, No. 8 precedes the Adagio (slow) movement with the Scherzo movement on the model of Beethoven's Symphony No. 9. As for orchestration, Wagner tubas (oval-shaped brass instruments) lend more gravity to Bruckner's already-stately sound.

A striking difference between No. 8's first and second versions is the ending of the opening C-minor movement written as a three-theme sonata: the first version finishes with an abrupt loud (*fff*) coda in C major, which was fully cut at Bruckner's revision so the second version would end softly. The next Scherzo is in A-B-A form: Bruckner famously replaced the 1887 original trio without harps (B section) by a brand-new trio with harps for the second version. The third movement is a grand Adagio in D-flat major in A-B-A-B-A-coda form: at the climax prior to the coda, six cymbal crashes are heard in the first version instead and only two in the second version. The finale in C minor, a freely-designed three-theme sonata, concludes the symphony in bright C major, combining four themes of all the four movements.

Kumiko Nishi

English-French-Japanese translator based in the USA. Holds a MA in musicology from the University of Lyon II, France and a BA from the Tokyo University of the Arts (Geidai).

PROGRAM

B

Concert No.2017

Suntory Hall

September

19 (Thu) 7:00pm

20 (Fri) 7:00pm

conductor

Fabio Luisi | for a profile of Fabio Luisi, see p. 48

piano

Hélène Grimaud

concertmaster

Fuminori Maro Shinozaki

Franz Schubert
Overture in the Italian Style No. 2
C Major D.591 [7']

Robert Schumann
Piano Concerto A Minor Op. 54 [31']

- I Allegro affettuoso
- II Intermezzo: Andantino grazioso
- III Allegro vivace

— intermission (20 minutes) —

Ludwig van Beethoven
***Symphony No. 7 A Major Op. 92* [43']**

- I Poco sostenuto – Vivace
- II Allegretto
- III Presto
- IV Allegro con brio

— All performance durations are approximate.

Artist Profile

Hélène Grimaud, piano



French pianist Hélène Grimaud was born in Aix-en-Provence in 1969. She studied with Pierre Barbizet in Marseille and Jacques Rouvier at the Conservatoire de Paris, and pursued further studies under György Sándor and Leon Fleischer.

In 1987, she held a debut recital in Tokyo, and launched her international career by performing with the Orchestre de Paris at the invitation of Daniel Barenboim. When she was thirteen years old, she was fascinated by Beethoven's later works, since then, she has developed her interest in German and Austrian composers such as Schumann and Brahms, however, on the other hand, she has shown enthusiasm to a much wider perspective of repertoire including their contemporaries, and

B

19 & 20, SEPT. 2024

sometimes, she has faced the music in her own way from the viewpoint of life and death.

She once said that performing on stage was not for seeking the truth because the truth differs between every individual, but it is to give everything she has to audience. You should be honest between yourself and music. She is also a person with multiple talents such as writing books, living with wolves and having synesthesia.

This is her first return to the NHK Symphony Orchestra after an 11-year absence. She will certainly show the best of her potential by playing Schumann Concerto which she performed 20 years ago under the baton of Vladimir Ashkenazy.

[Hélène Grimaud by Takaakira Aosawa, music critic]

Program Notes | Kumiko Nishi

Franz Schubert (1797–1828)

Overture in the Italian Style No. 2 C Major D.591

A born and bred Viennese, Schubert enrolled in 1808 the Stadtkonvikt (imperial seminary) as a musical wonder boy. He studied composition there under the Italian composer Antonio Salieri (1750–1825) who was the Viennese Court’s music director. Both before and after entering the teaching profession in 1814, Schubert composed in an astonishingly prolific manner as if he knew his fate to die young.

Another Italian figure had then a great influence on the obscure young musician: ever since the operas of Gioachino Rossini (1792–1868) were introduced to Vienna in 1816, his popularity in this capital of music grew fast to create the so-called “Rossini Rummel (Rossini craze)” by the early 1820s. Schubert, firmly rooted in the tradition of Haydn, Mozart and Beethoven, was not an exception to this southern trend. Good examples of this are his two orchestral *Overtures in the Italian Style* and Symphony No. 6 *Little C major*, which were all penned in 1817 when he was twenty.

The character of the Overture No. 2 in C major reveals itself early at the Rossinian slow introduction. The main Allegro section has the skipping first theme presented softly by the first violins, then the languid second theme has a dramatic gradual increase in volume reminding us of the famous “Rossini crescendo.” Although “in the Italian style” of the title is not by Schubert himself, the work indeed crosses southern borders spiritedly.

Robert Schumann (1810–1856)

Piano Concerto A Minor Op. 54

The German composer and music critic Schumann is one of the flag-bearers of early Romanticism in music alongside Mendelssohn and Liszt. Schumann also saved Schubert’s monumental symphony (*The Great D.944*) from oblivion and arranged for its first public performance (1839), which led to proper evaluations of the Viennese master devalued up until then.

Piano was the instrument Schumann knew in detail as he had intended to become a pianist.

A serious finger injury caused by excessive practice turned him to composition, while Clara Wieck, whom he married in 1840, was one of the most eminent pianists of the 19th century.

The first movement of Schumann's Piano Concerto op. 54 was originally born in 1841 as *Fantasy for Piano and Orchestra*. He revised it and added to it the graceful slow movement and the splendid finale in rondo form (performed continuously without pause) to complete his Piano Concerto in 1845. Not unexpectedly, Clara served as the soloist at the first performance the next year in Leipzig.

A novelty of the work resides in the first sonata movement retaining the trace of the initial “Fantasy,” more concretely its loose sonata design and fantastic, improvisatory nature. Directly after the piano bursts at the opening of the concerto, the oboe hints at Clara's nickname (**Chiara/Chiarina**) giving the four-note motif (C–H–A–A) which would return many a time in various shapes throughout the work to unite it.

Ludwig van Beethoven (1770–1827)

Symphony No. 7 A Major Op. 92

The German composer Beethoven has been profoundly admired and even awed by his successors like Schubert and Schumann, especially because of his dauntless spirit and insatiable pursuit of musical innovations. Beethoven's nine symphonies, all disparate, show us concisely how he always set off for new horizons at every work to bring unprecedented ideas to fruition.

While Beethoven's epochal Symphony No. 5 *Destiny* (1808) became the model among models of an abstract symphony sculpted with highly elaborate motivic development for all the composers to come, his unusual five-movement No. 6 *Pastorale* (1808) having official programmatic content, blazed a trail for future programmatic symphonies with the genuine Romantic spirit such as *Symphonie fantastique* (1830) by Berlioz and acres of symphonic (tone) poems. The following No. 7 is, of all Beethoven's symphonies, arguably the most closely connected with the notion of dance, displaying an unrelenting rhythmic vitality. We can hear why Wagner, another great admirer of Beethoven, extolled this piece with the celebrated expression, “apotheosis of dance.”

Completed in 1812, No. 7 was premiered the next year in Vienna under the composer's own baton alongside his patriotic orchestral piece *Wellington's Victory* (often called the *Battle Symphony*) in the same program. The first sonata movement of No. 7 is opened with a large Apollonian, peaceful introduction before the light-hearted main section dominated by repeated dotted rhythm starts. The second movement in a steady duple meter is a sort of march, which is in a way, the most fundamental form of dance. Its slower tempo and obsessively repeated note in a dark mood seem to evoke a funeral procession. Incidentally, Schumann's *Etudes in Variation Form on a Theme by Beethoven* (1833) would be based on this movement's main theme. The third movement is a brisk scherzo with two contrasting sections alternating with each other (A–B–A–B–A). The fourth movement, again in sonata form, is a Dionysian wild finale distinctive of a repeated rhythm with an accent on the second beat. The conclusion is probably the most euphoric in the history of symphonies.

Kumiko Nishi

For a profile of Kumiko Nishi, see p. 50

PROGRAM

C

Concert No.2018

NHK Hall

September

27(Fri) 7:00pm

28(Sat) 2:00pm

conductor

Tadaaki Otaka

cello

Rei Tsujimoto*

concertmaster

Sunao Goko

Peter Ilich Tchaikovsky
Variations on a Rococo Theme,
Op. 33 (Edited by Fitzenhagen)* [18']

— intermission (20 minutes) —

Peter Ilich Tchaikovsky
The Swan Lake, ballet Op. 20
(Excerpts) [62']

Introduction

[Act I] No. 1 Scene

No. 2 Waltz

No. 5 Pas de deux

No. 8 Dance of the Goblets

[Act II] No. 10 Scene

No. 13 Dances of the Swans

III Dances of the Big Swans

IV Dances of the Little Swans

V Pas d'action

[Act III] No. 15 (Allegro giusto)

No. 20 Hungarian Dance: Czardas

No. 21 Spanish Dance

No. 22 Neapolitan Dance

No. 23 Mazurka

[Act IV] No. 28 Scene

No. 29 Finale

- All performance durations are approximate.

Artist Profiles

Tadaaki Otaka, conductor



Tadaaki Otaka was born in 1947 to a musical family. His father Hisatada was a composer and conductor, his mother Misaoko was a pianist and his elder brother Atsutada was a composer. He studied under Hideo Saito at the Toho Gakuen School of Music, and after winning 2nd prize at the 2nd Min-On Music Competition for Conducting, he became Conductor Trainee of the NHK Symphony Orchestra. He has served

in such positions as Permanent Conductor (now Conductor Laureate) of the Tokyo Philharmonic Orchestra, Permanent Conductor (now Honorary Guest Conductor) of the Yomiuri Nippon Symphony Orchestra, Music Director (now Honorary Music Director) of the Sapporo Symphony Orchestra, and Artistic Director (Opera) of the New National Theatre. Since 2018, he has been Music Director of the Osaka Philharmonic Orchestra. He has also been ardent in teaching young musicians.

Since his professional debut as a conductor in a public broadcast of a concert of the NHK Symphony Orchestra in 1971, he has been working with the orchestra for more than half a century, and became its Permanent Conductor in 2010, bringing out a rich and fulfilling sound from the NHK Symphony Orchestra. The main work of the Tchaikovsky program of the subscription concert he will conduct is *The Swan Lake* (Excerpts). This is the first time to conduct it with the NHK Symphony Orchestra, however, Otaka, who is popular in Britain as Principal Conductor of the BBC National Orchestra of Wales (now Conductor Laureate), has been warmly received with this local favorite work. Considering that, we are thrilled to see how he, a conductor who has reached maturity, will produce the work with his baton and the NHK Symphony Orchestra.

[Tadaaki Otaka by Nobuyasu Matsuoka, music critic]

Rei Tsujimoto, cello



Born in Aichi Prefecture, Rei Tsujimoto started learning cello at the age of seven. He was in Philadelphia in the U.S. until eleven years old. After graduating at the top of his class from the Department of Instrumental Music, Music Faculty of Tokyo University of the Arts, he pursued further studies at the Sibelius Academy in Finland and the Bern University of the Arts in Switzerland. Until now, he has worked with such orchestras as the Tokyo Symphony Orchestra, the Yomiuri Nippon Symphony Orchestra, the State Academic Symphony Orchestra of Russia and the Berliner Philharmoniker. In addition, he regularly holds solo recitals while frequently participating in chamber music concerts as a member of the cello quartet Quartet Explorce and the Hibari String Quartet.

In 2009, he won 3rd prize at the Gaspar Cassado International Violoncello Competition, the highest award ever won by a Japanese artist, and received the 12th Hideo Saito Memorial Fund Award in 2013. He has been Principal Cello of the NHK Symphony Orchestra since 2020, and performed as soloist for Haydn's Cello Concerto in the orchestra's May 2021 subscription concert, and for *Gauche the cellist, a fairy tale for orchestra* by Hikaru Hayashi in N-kyo Hotto Concert in 2022.

He will surely present a deep emotional solo performance for his audience on this occasion. The cello he plays is a 1730 Stradivarius on loan from the Munetsugu Collection, and with a Tourte bow on special loan from the Yasushi Sumino Collection.

C

27 & 28. SEPT. 2024

Peter Ilich Tchaikovsky (1840–1893)

Variations on a Rococo Theme, Op. 33 (Edited by Fitzenhagen)

At the forefront of Russian Romanticism, Tchaikovsky is well-known for his innate good sense of melody writing and his style deeply rooted in the Western, European tradition. He especially worshiped Mozart (1756–1791), since the former in his childhood heard excerpts from the Austrian genius' opera *Don Giovanni* on an “orchestration” (highly sophisticated music box) at home. To commemorate the 100th anniversary since the opera's 1787 premiere, Tchaikovsky's Orchestral Suite No. 4 *Mozartiana* was first performed in 1887. The devotee even translated into Russian the recitatives of Mozart's other opera *The Marriage of Figaro*.

Composed for solo cello and a compact orchestra, Tchaikovsky's single-movement *Variations on a Rococo Theme* is a tribute to Mozart and his Rococo style (characterized by an abundance of ornament, often curvy, this elegant style was popular in the 18th century in various art). The work was premiered in 1877 in Moscow by the German cellist and teacher Wilhelm Fitzenhagen, the composer's colleague at the Moscow Conservatory. For this occasion, the cellist reworked Tchaikovsky's original score for effect (even reordering the variations and omitting one): this version, widely-known among audiences and performers, will be used in today's concert as well.

After the brief orchestral introduction, the solo cello introduces the light-hearted, graceful theme in “Moderato semplice” (at a moderate tempo and in a simple manner). This tune written by Tchaikovsky himself in the Rococo style, is followed by the seven variations and the brilliant coda.

Peter Ilich Tchaikovsky

The Swan Lake, ballet Op. 20 (Excerpts)

Tchaikovsky attained immortal fame with his three ballets. Whilst *The Sleeping Beauty* (1890) and *The Nutcracker* (1892) were successively penned and premiered at the Mariinsky Theatre in Saint Petersburg in Tchaikovsky's closing years, *The Swan Lake* (1877) was born more than a decade earlier to be first staged at the Bolshoi Theatre in Moscow. The reason why the Bolshoi picked the composer up for the project is obscure. In all cases, he suffered a bitter experience at the premiere with his music being treated disrespectfully and executed without sufficient preparations. It was only after his sudden death that *The Swan Lake* became an essential repertoire of dance companies throughout the world, which was ushered by the historical 1894/1895 revival performances choreographed by Lev Ivanov and Marius Petipa.

Today's program consists of numbers excerpted by our conductor Tadaaki Otaka. Arranged so as to follow the plot's flow, they digest Tchaikovsky's eventful score in an exquisite balance. The heavy-hearted *Introduction* foretells the fate of the protagonists. [Act I] In a palace garden, the Prince Siegfried's coming-of-age party is livened up by peasant girls' dance (*Waltz*). Now by a lake at night, [Act II] gives the celebrated sorrowful Swan Theme sung by an oboe over a harp and strings (*Scene*), before Siegfried sees a white swan turn into the human Princess Odette: they fall in love with each other. Her swan friends also transform themselves into human maidens to dance (*Dances of the Swans*). [Act III] takes place at the

opulent palace ballroom where colorful *Hungarian, Spanish, Neapolitan* and Polish (*Mazurka*) Dances are heard, before Siegfried vows eternal love to Odile, the daughter of the evil magician Rothbart, mistaking her for Odette because of Rothbart's sorcery. [Act IV] By the lake at night, Odette's swan friends are consoling her in despair. A storm comes on. Siegfried joins Odette to ask for forgiveness. The young lovers drown themselves in the lake so their souls will be united forever (*Scene and Finale*).

C

27 & 28. SEPT. 2024

Kumiko Nishi

For a profile of Kumiko Nishi, see p. 50

The Subscription Concerts Program 2024–25

2024 09	A	Concert No. 2016 September 14 (Sat) 6:00pm 15 (Sun) 2:00pm NHK Hall	The 200th Anniversary of Anton Bruckner's Birth Bruckner Symphony No. 8 C Minor (First Version/1887) Fabio Luisi, conductor	Ordinary \$ 11,000 A 9,500 B 7,600 C 6,000 D 5,000 E 3,000	Youth \$ 5,500 A 4,500 B 3,500 C 2,800 D 1,800 E 1,400
		Concert No. 2017 September 19 (Thu) 7:00pm 20 (Fri) 7:00pm Suntory Hall	Schubert <i>Overture in the Italian Style</i> No. 2 C Major D. 591 Schumann Piano Concerto A Minor Op. 54 Beethoven Symphony No. 7 A Major Op. 92 Fabio Luisi, conductor Hélène Grimaud, piano	Ordinary \$ 12,000 A 10,000 B 8,000 C 6,500 D 5,500	Youth \$ 6,000 A 5,000 B 4,000 C 3,250 D 2,750
		Concert No. 2018 September 27 (Fri) 7:00pm 28 (Sat) 2:00pm NHK Hall	Tchaikovsky <i>Variation on a Rococo Theme</i> , Op. 33 (Edited by Fitzenhagen)* Tchaikovsky <i>The Swan Lake</i> , ballet Op. 20 (Excerpts) Tadaaki Otaka, conductor Rei Tsujimoto (Principal Cello, NHKSO), cello*	Ordinary \$ 10,000 A 8,500 B 6,500 C 5,400 D 4,300 E 2,200	Youth \$ 5,000 A 4,000 B 3,100 C 2,550 D 1,500 E 1,000
2024 10	A	Concert No. 2020 October 19 (Sat) 6:00pm 20 (Sun) 2:00pm NHK Hall	Honegger Symphony No. 3, <i>Liturgique</i> Brahms Symphony No. 4 E Minor Op. 98 Herbert Blomstedt, conductor	Ordinary \$ 11,000 A 9,500 B 7,600 C 6,000 D 5,000 E 3,000	Youth \$ 5,500 A 4,500 B 3,500 C 2,800 D 1,800 E 1,400
		Concert No. 2019 October 10 (Thu) 7:00pm 11 (Fri) 7:00pm Suntory Hall	Sibelius <i>4 Legends</i> Op. 22, sym. poem— <i>The Swan of Tuonela</i> Nielsen Clarinet Concerto Op. 57 Berwald Symphony No. 4 E-flat Major, <i>Sinfonie naïve</i> Herbert Blomstedt, conductor Kei Ito (Principal Clarinet, NHKSO), clarinet	Ordinary \$ 12,000 A 10,000 B 8,000 C 6,500 D 5,500	Youth \$ 6,000 A 5,000 B 4,000 C 3,250 D 2,750
		Concert No. 2021 October 25 (Fri) 7:00pm 26 (Sat) 2:00pm NHK Hall	Schubert Symphony No. 7 B Minor D. 759, <i>Unvollendete (Unfinished Symphony)</i> Schubert Symphony No. 8 C Major D. 944, <i>Große (The Great)</i> Herbert Blomstedt, conductor	Ordinary \$ 11,000 A 9,500 B 7,600 C 6,000 D 5,000 E 3,000	Youth \$ 5,500 A 4,500 B 3,500 C 2,800 D 1,800 E 1,400
2024 11	A	Concert No. 2022 November 9 (Sat) 6:00pm 10 (Sun) 2:00pm NHK Hall	Roussel <i>Bacchus et Ariane</i> , ballet Op. 43—Suite No. 1 (<i>Bacchus and Ariadne</i>) Bartók Piano Concerto No. 3 Ravel <i>Valses nobles et sentimentales (Noble and Sentimental Waltzes)</i> Debussy <i>Images for Orchestra—Iberia</i> Kazuki Yamada, conductor Francesco Piemontesi, piano	Ordinary \$ 10,000 A 8,500 B 6,500 C 5,400 D 4,300 E 2,200	Youth \$ 5,000 A 4,000 B 3,100 C 2,550 D 1,500 E 1,000
		Concert No. 2024 November 21 (Thu) 7:00pm 22 (Fri) 7:00pm Suntory Hall	Tchaikovsky Violin Concerto D Major Op. 35 Prokofiev <i>The Tale of Stone Flower</i> , ballet — <i>The Mistress of the Copper Mountain, Wedding Suite</i> Stravinsky <i>Symphony in Three Movements</i> Dima Slobodeniouk, conductor Nikita Boriso-Glebsky, violin	Ordinary \$ 12,000 A 10,000 B 8,000 C 6,500 D 5,500	Youth \$ 6,000 A 5,000 B 4,000 C 3,250 D 2,750
		Concert No. 2023 November 15 (Fri) 7:00pm 16 (Sat) 2:00pm NHK Hall	Wagner <i>Tannhäuser</i> , opera—Overture Weinberg Trumpet Concerto B-flat Major Op. 94 Shostakovich Symphony No. 5 D Minor Op. 47 Andrés Orozco-Estrada, conductor Reinhold Friedrich, trumpet	Ordinary \$ 10,000 A 8,500 B 6,500 C 5,400 D 4,300 E 2,200	Youth \$ 5,000 A 4,000 B 3,100 C 2,550 D 1,500 E 1,000

All performers and programs are subject to change or cancellation depending on the circumstances.

A **NHK Hall**
Sat. 6:00pm (doors open at 5:00pm)
Sun. 2:00pm (doors open at 1:00pm)

2024
12

A Concert No. **2025**

Nov. 30 (Sat)
6:00pm

Dec. 1 (Sun)
2:00pm

— The 1st day concert
of the December
subscription Program A
will be held in November.

NHK Hall

B Concert No. **2026**

December

5 (Thu) 7:00pm

6 (Fri) 7:00pm

Suntory Hall

C Concert No. **2027**

December

13 (Fri) 7:00pm

14 (Sat) 2:00pm

NHK Hall

2025
01

A Concert No. **2028**

January

18 (Sat) 6:00pm

19 (Sun) 2:00pm

NHK Hall

B Concert No. **2030**

January

30 (Thu) 7:00pm

31 (Fri) 7:00pm

Suntory Hall

C Concert No. **2029**

January

24 (Fri) 7:00pm

25 (Sat) 2:00pm

NHK Hall

2025
02

A Concert No. **2031**

February

8 (Sat) 6:00pm

9 (Sun) 2:00pm

NHK Hall

B Concert No. **2032**

February

13 (Thu) 7:00pm

14 (Fri) 7:00pm

Suntory Hall

C Concert No. **2033**

February

21 (Fri) 7:00pm

22 (Sat) 2:00pm

NHK Hall

The 150th Anniversary of Arnold Schönberg's Brith

Wagner *Tristan und Isolde* (*Tristan and Isolde*)—*Prelude and Liebestod*

R. Strauss *Das Rosenband* Op. 36-1 (*The Rose Chain*)*

R. Strauss *Freundliche Vision* Op. 48-1 (*A Welcome Vision*)*

R. Strauss *Waldseligkeit* Op. 49-1 (*Bliss in the Woods*)*

R. Strauss *Befreit* Op. 39-4 (*Released*)*

R. Strauss *Morgen* Op. 27-4 (*Tomorrow*)*

Schönberg *Pelleas und Melisande* Op. 5 (*Pelléas and Mélisande*)

Fabio Luisi, conductor Christiane Karg, soprano*

Smetana *The Bartered Bride*, opera—Overture

Rakhmaninov Piano Concerto No. 3 D Minor Op. 30

Mussorgsky / Ravel *Pictures at an Exhibition*, suite

Fabio Luisi, conductor

Nelson Goerner, piano

Liszt *Tasso: lamento e trionfo*, sym. poem (*Tasso: Lament and Triumph*)

Liszt *Eine Faust-Symphonie in drei Charakterbildern*

(*A Faust Symphony in Three Character Pictures*)*

Fabio Luisi, conductor

James McCorkle, tenor* Tokyo Opera Singers, male chorus*

James McCorkle, tenor*

James McCorkle, tenor*

Shostakovich Symphony No. 7 C Major Op. 60, *Leningrad*

Tugan Sokhiev, conductor

Mussorgsky / Liadov *The Fair at Sorochyntsi*,

opera—*Introduction, Gopak*

Bartók Violin Concerto No. 2

Dvořák Symphony No. 8 G Major Op. 88

Tugan Sokhiev, conductor

Sunao Goko (First Concertmaster, NHKSO), violin

Stravinsky *Pulcinella*, ballet

Brahms Symphony No. 1 C Minor Op. 68

Tugan Sokhiev, conductor

Tugan Sokhiev, conductor

Tugan Sokhiev, conductor

Stravinsky *Pulcinella*, ballet

Brahms Symphony No. 1 C Minor Op. 68

Tugan Sokhiev, conductor

Tugan Sokhiev, conductor

Tugan Sokhiev, conductor

Tugan Sokhiev, conductor

Tugan Sokhiev, conductor

Tugan Sokhiev, conductor

Tugan Sokhiev, conductor

Tugan Sokhiev, conductor

Tugan Sokhiev, conductor

Tugan Sokhiev, conductor

Tugan Sokhiev, conductor

Tugan Sokhiev, conductor

Tugan Sokhiev, conductor

Tugan Sokhiev, conductor

Tugan Sokhiev, conductor

Tugan Sokhiev, conductor

Tugan Sokhiev, conductor

Tugan Sokhiev, conductor

Tugan Sokhiev, conductor

Tugan Sokhiev, conductor

Tugan Sokhiev, conductor

Tugan Sokhiev, conductor

Tugan Sokhiev, conductor

Tugan Sokhiev, conductor

Tugan Sokhiev, conductor

Tugan Sokhiev, conductor

Tugan Sokhiev, conductor

Tugan Sokhiev, conductor

Ordinary	Youth
S 11,000	S 5,500
A 9,500	A 4,500
B 7,600	B 3,500
C 6,000	C 2,800
D 5,000	D 1,800
E 3,000	E 1,400

Ordinary	Youth
S 12,000	S 6,000
A 10,000	A 5,000
B 8,000	B 4,000
C 6,500	C 3,250
D 5,500	D 2,750

Ordinary	Youth
S 13,000	S 6,500
A 11,000	A 5,200
B 8,500	B 4,000
C 7,000	C 3,500
D 5,600	D 2,000
E 3,500	E 1,700

Ordinary	Youth
S 11,000	S 5,500
A 9,500	A 4,500
B 7,600	B 3,500
C 6,000	C 2,800
D 5,000	D 1,800
E 3,000	E 1,400

Ordinary	Youth
S 12,000	S 6,000
A 10,000	A 5,000
B 8,000	B 4,000
C 6,500	C 3,250
D 5,500	D 2,750

Ordinary	Youth
S 11,000	S 5,500
A 9,500	A 4,500
B 7,600	B 3,500
C 6,000	C 2,800
D 5,000	D 1,800
E 3,000	E 1,400

Ordinary	Youth
S 10,000	S 5,000
A 8,500	A 4,000
B 6,500	B 3,100
C 5,400	C 2,550
D 4,300	D 1,500
E 2,200	E 1,000

Ordinary	Youth
S 12,000	S 6,000
A 10,000	A 5,000
B 8,000	B 4,000
C 6,500	C 3,250
D 5,500	D 2,750

Ordinary	Youth
S 10,000	S 5,000
A 8,500	A 4,000
B 6,500	B 3,100
C 5,400	C 2,550
D 4,300	D 1,500
E 2,200	E 1,000

Suppé *Leichte Kavallerie*, operetta—Overture (*Light Cavalry*)

Saint-Saëns Violin Concerto No. 3 B Minor Op. 61

Suppé *Dichter und Bauer*, operetta—Overture (*Poet and Peasant*)

Offenbach / Rosenthal *Gaîté Parisienne*, ballet (Excerpts) (*Parisian Gaiety*)

Tatsuya Shimono, conductor

Fumiaki Miura, violin

2025
04

A	Concert No. 2034	Berlioz <i>Harold en Italie</i> , symphony (<i>Harold in Italy</i>)* Prokofiev Symphony No. 4 C Major Op. 112 (Revised Version / 1947)	Ordinary	Youth
	April 12 (Sat) 6:00pm 13 (Sun) 2:00pm NHK Hall Paavo Järvi, conductor Antoine Tamestit, viola*		S 11,000 A 9,500 B 7,600 C 6,000 D 5,000 E 3,000	S 5,500 A 4,500 B 3,500 C 2,800 D 1,800 E 1,400
B	Concert No. 2035	Stravinsky <i>Petrushka</i> , ballet (Complete, 1947 Version) Britten Piano Concerto Op. 13 Prokofiev <i>The Love for Three Oranges</i> , symphonic suite Op. 33bis	Ordinary	Youth
	April 17 (Thu) 7:00pm 18 (Fri) 7:00pm Suntory Hall Paavo Järvi, conductor Benjamin Grosvenor, piano		S 12,000 A 10,000 B 8,000 C 6,500 D 5,500	S 6,000 A 5,000 B 4,000 C 3,250 D 2,750
C	There will be no subscription concerts of program C in April due to the orchestra's European tour.			

2025
05

A	Concert No. 2036	The Program scheduled to be performed at Mahler Festival 2025 Mahler Symphony No. 3 D Minor	Ordinary	Youth
	April 26 (Sat) 6:00pm 27 (Sun) 2:00pm - Program A of the May subscription concerts will be held in April. NHK Hall Fabio Luisi, conductor Olesya Petrova, mezzo soprano Tokyo Opera Singers, female chorus NHK Tokyo Children Chorus, children chorus		S 15,000 A 12,500 B 10,000 C 8,000 D 6,500 E 4,500	S 7,000 A 6,000 B 5,000 C 4,000 D 3,000 E 2,000
B	Concert No. 2037	The Program scheduled to be performed at Mahler Festival 2025 (only Mahler) Berg Violin Concerto Mahler Symphony No. 4 G Major*	Ordinary	Youth
	May 1 (Thu) 7:00pm 2 (Fri) 7:00pm Suntory Hall Fabio Luisi, conductor Akiko Suwanai, violin Maki Mori, soprano*		S 12,000 A 10,000 B 8,000 C 6,500 D 5,500	S 6,000 A 5,000 B 4,000 C 3,250 D 2,750
C	Concert No. 2038	Schubert <i>Rosamunde</i> , overture Dohnányi <i>Variations on a Nursery Tune</i> , Op. 25* R. Strauss Symphonic Fantasy from <i>Die Frau ohne Schatten</i> (<i>The Woman without a Shadow</i>) R. Strauss Suite from <i>Der Rosenkavalier</i> (<i>The Rose-Bearer</i>) Giedrė Šlekytė, conductor Mao Fujita, piano*	Ordinary	Youth
	May 30 (Fri) 7:00pm 31 (Sat) 2:00pm NHK Hall		S 10,000 A 8,500 B 6,500 C 5,400 D 4,300 E 2,200	S 5,000 A 4,000 B 3,100 C 2,550 D 1,500 E 1,000

2025
06

A	Concert No. 2039	Rimsky-Korsakov <i>May Night</i> , opera—Overture Rakhmaninov <i>Rhapsody on a Theme of Paganini</i> , Op. 43* Tchaikovsky Symphony No. 6 B Minor Op. 74, <i>Pathétique</i>	Ordinary	Youth
	June 7 (Sat) 6:00pm 8 (Sun) 2:00pm NHK Hall Vladimir Fedoseyev, conductor Yulianna Avdeeva, piano*		S 10,000 A 8,500 B 6,500 C 5,400 D 4,300 E 2,200	S 5,000 A 4,000 B 3,100 C 2,550 D 1,500 E 1,000
B	Concert No. 2040	Ibert Flute Concerto Bruckner Symphony No. 6 A Major	Ordinary	Youth
	June 12 (Thu) 7:00pm 13 (Fri) 7:00pm Suntory Hall Juanjo Mena, conductor Karl-Heinz Schütz, flute		S 12,000 A 10,000 B 8,000 C 6,500 D 5,500	S 6,000 A 5,000 B 4,000 C 3,250 D 2,750
C	Concert No. 2041	Korngold Violin Concerto D Major Op. 35 Mahler Symphony No. 1 D Major, <i>Titan</i>	Ordinary	Youth
	June 20 (Fri) 7:00pm 21 (Sat) 2:00pm NHK Hall Tarmo Peltokoski, conductor Daniel Lozakovich, violin		S 10,000 A 8,500 B 6,500 C 5,400 D 4,300 E 2,200	S 5,000 A 4,000 B 3,100 C 2,550 D 1,500 E 1,000

All performers and programs are subject to change or cancellation depending on the circumstances.

N響関連のお知らせ

いつでも どこでも、NHKの番組を。

NHK+



利用登録はこちらから

<https://plus.nhk.jp/info/>

総合・Eテレの番組を

スマホやタブレット・
パソコン・テレビ^{※1}で
放送から1週間^{※2} 何度でも



アプリで便利に

お楽しみいただけます！

※1 テレビでは見逃し番組配信のみ
※2 地域によっては放送の一部は延長・期間配信

メールアドレスとパスワードを入力するだけで
すぐに見逃し配信をご覧いただけます

※放送受信規約のある世帯の方が追加のご負担なく利用できるサービスです

スマホやPCでNHKラジオが楽しめる！

NHK ラジオ らじる★らじる

スマートフォンやパソコンでラジオ第1(R1)・ラジオ第2(R2)・NHK-FM
の放送をリアルタイムで聴くことができます。スマートフォンならアプリでも
お楽しみいただけます。 <http://www.nhk.or.jp/radio>

放送が終わっても
楽しめる！
聴き逃し

放送終了後1週間／
聴き逃し対象番組のみ



スマートフォン用アプリはこちら

伝えるチカラ

NHK 財団

◎ 公共メディアNHKを社会へ

◎ 社会貢献事業で、次世代の未来を応援！

2023年4月、NHK グループの4つの
一般財団法人が合併して、NHK財団
が発足しました。子法人の公益財団法人「NHK交響楽団」と共に、事業を進
めています。

ステラ
net



NHK財団の最新情報ははこちら

NHK こども 音楽クラブ

「NHKこども音楽クラブ」は、
NHKとNHK交響楽団で
実施している出前授業。
全国各地の学校を訪ね
ミニコンサートを行っています。

間近で聴く演奏に
目を輝かせる子どもたち
そして、素顔のN響メンバーに
出会えるコンサートです。

各公演の動画が
ホームページで
ご覧いただけます



<https://www.nhk.or.jp/event/kodomo-ongaku/>

N響の社会貢献

音楽は人々を元気づけ、ひとときの安らぎを与えてくれます。

N響はコンサートホールを飛び出して、さまざまな場所、さまざまな人たちに美しい音色をお届けし、広く社会に貢献していきます。

子どもたちの未来を育む

「N響が学校にやってきた」をキャッチフレーズにNHKと共催し、楽員たちが全国の小中学校を訪ねてミニコンサートを開く「NHKこども音楽クラブ」、クラシックの名曲を集めて毎年夏休みに開いている子どもと大人がともに楽しめるコンサート「N響ほっとコンサート」、N響の練習所に地元の保育園児を招いて楽器の音色を楽しんでいただく「N響といっしょ！音を楽しむ!!」などを開催しています。また、小中学校と協力し、子どもたちが創作と演奏をN響メンバーと一緒に体験するワークショップに取り組むなど、新たな音楽教育プログラムの開発にも力を入れています。

優れた音楽家を育てる

1950年代に「指揮研究員」制度を設置し、有望な若手指揮者をオーケストラの現場に迎え入れ、国内外の巨匠たちとの音楽づくりに携わる機会を提供してきました。この場から故・外山雄三氏、故・岩城宏之氏、故・若杉弘氏、そして現在のN響正指揮者・尾高忠明をはじめ、日本のクラシック音楽界を担う人材を数多く輩出しています。また2003年にはオーケストラ楽員の人材育成を目的に「N響アカデミー」を創設。オーディションで選抜された受講生が、楽員からのレッスン、リハーサルや公演の参加などを通じてトレーニングを積み、修了生はN響をはじめ国内外のオーケストラで活躍しています。

指揮研究員

平石章人、湯川紘恵

N響アカデミー在籍者

ヴァイオリン：下野園ひな子、遠井彩花、中井楓梨、

山本大心 ヴィオラ：和田志織 チェロ：渡邊ゆかり
コントラバス：桑原孝太朗 クラリネット：浦畑尚吾
(2024年9月1日現在)

病院や福祉施設、被災地に届ける

病院や高齢者施設を楽員が訪れてミニコンサートを開き、入院する患者さん、看病するご家族、お年寄りの方たちに安らぎのひと時をお届けしています。また被災地にも出向き、演奏を通じて現地の人たちの応援にも力を入れてきました。

国際交流の輪を広げる

首都圏の大学と連携して外国人留学生を公演に招待しているほか、演奏指導などを通じてベトナム国立交響楽団との交流を重ねています。音楽は世界の架け橋です。演奏を通じた絆が世界中に広がることを願っています。

大学や専門家と連携する

コロナ禍では業界団体によって行われた演奏中の飛沫を調べる実験に多くの楽員、職員を派遣して協力。この実験を通じ、舞台上の安全な楽器の配置などがわかり、業界の統一したガイドライン作りに役立ちました。2021年からは東京工科大学の授業の一環に協力してN響コンサートのYouTube配信を実現。メディア学部の学生たちが撮影、編集を担当し、NHK出身の職員らの指導を受けてプロ顔負けの作品に仕上げました。N響はこれからも異なる分野の人たちと手をたずさえ、デジタル活用など新しい課題に取り組みます。

役員等・団友

役員等	理事長	中野谷 公一								
	常務理事	三溝敬志	大曾根 聡子							
	理事	相川直樹	内永ゆかり	岡田知之	杉山博孝	銭谷眞美	田辺雅泰	團 宏明	毛利 衛	
	監事	春原雄策	濱村和則							
	評議員	稲葉延雄	江頭敏明	樺山紘一	菅原 直	清野 智	田中宏暁	檀 ふみ	坪井節子	
		中嶋太一	前田昭雄	三浦 惺	山名啓雄	渡邊 修				

事務局	演奏制作部			企画プロモーション部		経営管理部		特別主幹	芸術主幹
	岩潤一真	沖 あかね	木村 英代	森下文典	三浦七葉子	野村 歩	杉山真知子	今村 啓一	
	丸山千絵	内山弥生		猪股正幸		浅田武志			
	石井 康	徳永匡哉		吉賀亜希		目黒重治		技術主幹	
	利光敬司	高橋 啓		宮崎則匡		山本能寛			
	高木 かおり	上原 静		黒川大亮		吉田麻子		尾澤 勉	

団友	鶴我 裕子	チェロ	北島 章	北村源三	ピアノ	入江 哲之
	徳永二男		浜 道晃	来馬 賢		金沢 孝
	中瀬裕道	岩井雅音	茂木大輔	関山幸弘	本荘 玲子	小林文行
	名譽コンサート マスター	永峰高志		津堅直弘		清水 永一郎
		根津昭義	クラリネット	栃本浩規	理事長	関 照枝
堀 正文	堀 伝	三戸正秀		福井 功		中馬 究
	堀江 悟	銅銀久弥	磯部周平	佛坂 咲千生	曾我 健	出口修平
	前澤 均	丹羽経彦	加藤明久		田畑和宏	西村集介
	宮里親弘	平野秀清	横川晴児	トロンボーン	野島直樹	芳賀由明
	武藤伸二	藤本英雄			日向英実	松崎 ユリ
ヴァイオリン	村上和邦	茂木新緑	ファゴット	伊藤 清	木田幸紀	望戸一男
	板橋 健			神谷 敏	森 茂雄	諸岡 淳
	梅澤美保子	山口裕之		栗田雅勝	今井 環	吉田博志
	海野義雄	蓬田清重	コントラバス	三輪純生	根本佳則	渡辺 克
	大澤 浄					渡辺 克己
大林修子	ヴィオラ	井戸田善之				
		志賀信雄	ホルン	チューバ	役員	
	大久保淑人	佐川裕昭				
	小野富士	新納益夫	大野良雄	多戸幾久三	加納民夫	
	梯 孝則		田村 宏	原田元吉	唐木田信也	
窪田茂夫	河野昌彦	フルート	中島大之		斉藤 滋	
	菅沼準二		樋口哲生	打楽器	関川精二	
	菅原 潤		松崎 裕		鳴嶋郁夫	
	店村眞積	菅原 潤	山田桂三	有賀誠門	原 武	
	田淵雅子	細川順三	山本 真	岡田知之	山崎大樹	
酒井敏彦	中竹英昭	宮本明恭		瀬戸川 正		
	三原征洋			百瀬和紀		
	鈴木弘一	村山 弘	オーボエ	トランペット	事務局	
	田淵 彰	渡部啓三				
	田中 裕	青山聖樹	井川明彦		稲川 洋	

フィルハーモニー2024年9月号 | 第96巻 第6号
2024年9月1日発行 ISSN 1344-5693

公益財団法人NHK交響楽団

〒108-0074 東京都港区高輪2-16-49
TEL: (03) 5793-8111 / FAX: (03) 3443-0278
発行人◎三溝敬志／編集人◎猪股正幸

企画・編集: (一) 財NHK財団
取材・編集: 株式会社アルテスパブリッシング
表紙・本文デザイン: 寺井恵司

印刷: 佐川印刷株式会社
©無断転載・複製を禁ず

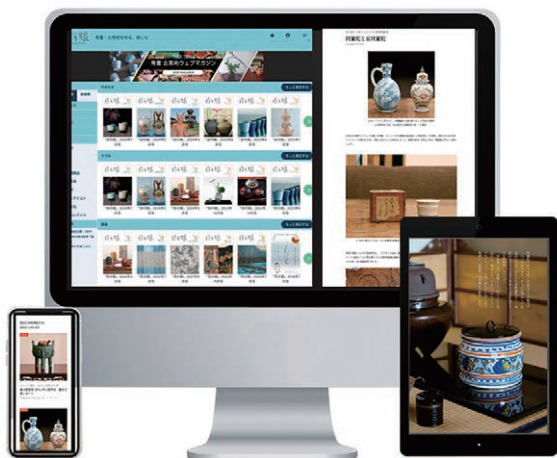
会員制オンラインストア

目の眼倶楽部 会員募集中

骨董・古美術の情報メディア

骨董・古美術誌『目の眼』がリニューアル。

創刊から約50年分の『目の眼』のアーカイブが読める「デジタル読み放題サービス」か、紙版雑誌の「年間購読」を選べる
2つのプランの有料会員をご用意しています。



有料会員にお申しいただくと、会員限定の記事コンテンツをご覧いただけるほか、ニュースレターの配信、展覧会のチケットプレゼントや限定イベントにご案内。欲しい雑誌や書籍も、サイトからすぐにご購入いただけます。

これからも『目の眼』を通して、骨董・古美術の楽しみを感じてください。



会員詳細・お申込 & 骨董・古美術ウェブマガジン

menomeonline.com

✉ info@menomeonline.com



目の眼 骨董 🔍 検索

NHK 音楽祭

NHK MUSIC FESTIVAL

2024

ラトル首席指揮者就任後、初の来日！
新時代を迎えるオケがいざなう、
マーラーの深淵

「音の魔術師」デュトワ、
N響との原点「春の祭典」で熱狂を再び！
ロシア・ピアノの真骨頂
ルガンスキーによるラフマニノフも必聴

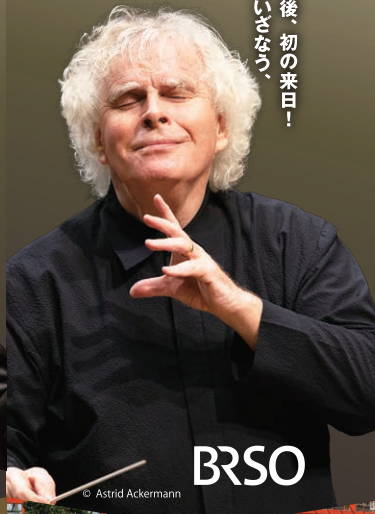
世界に名を馳せる名門プラスバンド、
壮大さと繊細さを兼ね備えた
鮮やかなコントラストがもたらす、
音楽の喜び



© John Stizaker



© Chris Lee



© Astrid Ackermann



© 堀田力丸



写真提供：NHK 交響楽団



© Astrid Ackermann

10月28日(月) 19:00開演

ブラック・ダイク・バンド

指揮：ニコラス・チャイルズ

ピアソラ／リベルタンゴ
ラヴェル／ボレロ
ジョン・ウィリアムズ／
映画「ハリー・ポッター」シリーズから
ほか

10月30日(水) 19:00開演

NHK交響楽団

指揮：シャルル・デュトワ

ピアノ：ニコライ・ルガンスキー

ラヴェル／組曲「マ・メール・ロワ」
ラフマニノフ／ピアノ協奏曲第2番 ※短調作品18
ストラヴィンスキー／バレエ音楽「春の祭典」
共催：NHK交響楽団 協賛：岩谷産業

11月28日(木) 19:00開演

バイエルン 放送交響楽団

指揮：サイモン・ラトル

パートウィッスル／
サイモンへの贈り物 2018
マーラー／交響曲第7番 ※短調「夜の歌」

NHKホール

前売券 好評販売中

入場料 (消費税込)

公演	公演日	開演	観覧券 予定	SS席	S席	A席	B席	C席	D席	U-29席
ブラック・ダイク・バンド	10/28 (月)	19:00	21:00		6,000	5,000	4,000	3,000		
NHK交響楽団	10/30 (水)	19:00	21:00	17,500	15,000	12,000	8,000	6,000	5,000	
バイエルン放送交響楽団	11/28 (木)	19:00	21:00	33,000	28,000	24,000	17,000	12,000	8,000	3,500

割引チケットのご案内
(SS席～B席対象)

N響とバイエルン放送響を同時に2公演お申込みいただいた場合、料金が5%割引になります。
取り扱いは、NHKプロモーションの「インターネット受付」「電話予約」のみです。詳しくは、NHK
プロモーションまでお問い合わせください。※ブラック・ダイク・バンド公演は、割引対象外です。

予定収束日
予定収束日
予定収束日

予定収束日
予定収束日
予定収束日

●お問い合わせ

ハローダイヤル 050-5541-8600 / 9:00～20:00 (無休)
NHKホームページ <http://nhk.jp/event>

NHKプロモーション 音楽祭係

TEL. 03-3468-7736 / 平日11:00～17:00

<https://www.nhk-p.co.jp/>



かんぽ生命 presents

N響 第九

Special Concert

バッハ／トッカータとフーガ ヘ長調 BWV 540

Bach Toccata and Fugue F Major BWV 540

オルガン：中田恵子
Keiko Nakata, organ

ベートーヴェン

交響曲 第9番 二短調 作品125「合唱つき」

Beethoven Symphony No.9 D Minor Op.125, Choral

2024年12月23日(月) 7:00pm

サントリーホール

Monday, December 23, 2024 Suntory Hall

一般：S ¥20,000 A ¥16,500 B ¥13,000 C ¥9,000

ユースチケット(29歳以下)：S ¥10,000 A ¥8,200 B ¥6,500 C ¥4,500 ※全て税込価格

チケット発売開始：9月29日(日) 10:00am

N響定期会員先行発売日：9月25日(水) 10:00am [定期会員は一般料金から10%割引]

お問い合わせ：N響ガイド 0570-02-9502 (営業日・営業時間はN響ホームページでご確認ください)

前売所

- WEBチケットN響 <https://nhkso.pia.jp>
- N響ガイド 0570-02-9502
- サントリーホールチケットセンター 0570-55-0017 suntory.jp/HALL/
- チケットぴあ pia.jp/t/nhkso
- e+ (イープラス) eplus.jp/nhkso
- ローソンチケット l-tike.com/nhkso

● ユースチケットはWEBチケットN響およびN響ガイドのみのお取り扱いとなります。初回ご利用時に年齢確認のための「ユース登録」が必要となります。詳細はN響ホームページをご覧ください。● 定期会員割引・先行発売はWEBチケットN響およびN響ガイドのみのお取り扱いとなります。● 車いす席をご希望の方は、N響ガイドへお問い合わせください。● N響ガイドでのお申し込みは、公演日の1営業日前までとなります。● やむを得ない理由で出演者や曲目等が変更となる場合や、公演が中止となる場合がございます。公演中止の場合をのぞき、チケット代金の払い戻しはいたしません。● 未就学児のご入場はお断りしています。● 公演に関する最新の情報はN響ホームページでご確認ください。

© Yusuke Miyazaki(SEPT)

指揮：ファビオ・ルイージ
(NHK交響楽団 首席指揮者)

Fabio Luisi, conductor



ソプラノ
ヘンリエット・
ボンデ・ハンセン
Henriette
Bonde-Hansen,
mezzo soprano

メゾ・ソプラノ
藤村実穂子
Mihoko Fujimura,
mezzo soprano



テノール
スチュアート・
スケルトン
Stuart Skelton,
tenor

バス・バリトン
トマス・トマソン
Tómas Tómasson,
bass-baritone

合唱：新国立劇場合唱団
New National Theatre Chorus, chorus



かんぽ生命

主催：NHK交響楽団
特別協賛：株式会社かんぽ生命保険

NHKSO
NHK SYMPHONY ORCHESTRA
TOKYO

N響第9

NHK交響楽団
ベートーヴェン「第9」演奏会
Beethoven 9th Symphony Concerts

ベートーヴェン
交響曲 第9番 ニ短調
作品125「合唱つき」

Beethoven Symphony No.9 D Minor Op.125, Choral

2024年 12/18(水)7:00pm | 12/19(木)7:00pm
12/21(土)2:00pm | 12/22(日)2:00pm | 12/24(火)7:00pm*

NHKホール

*12月24日はNHK/NHK厚生文化事業団主催の
チャリティコンサートです

指揮: **ファビオ・ルイージ**
(NHK交響楽団 首席指揮者)

合唱: 新国立劇場合唱団

©Yusaku Kurosawa (SEPT)



ソプラノ:
ヘンリエッテ・
ボンデ・ハンセン



メゾ・ソプラノ:
藤村 実穂子



テノール:
スチュアート・
スケルトン



バス・バリトン:
トマス・トマソン

お問い合わせ

N響ガイド: 0570-02-9502

(営業日・営業時間は

N響ホームページでご確認ください)

NHK厚生文化事業団: 03-3476-5955

(24日公演のみ、平日10:00am~6:00pm)

主催: NHK/NHK交響楽団
主催(24日): NHK/NHK厚生文化事業団

協賛: みずほ証券株式会社
はごろもフーズ株式会社
株式会社明電舎

チケット発売開始

9月29日(日)10:00am

N響定期会員先行発売日: 9月25日(水)10:00am

料金(税込)

一般 S ¥17,000 A ¥13,500 B ¥10,000 C ¥7,500 D ¥5,000

ユースチケット(29歳以下) S ¥8,500 A ¥6,750 B ¥5,000 C ¥3,750 D ¥2,500

ユースチケット対象年齢を拡大。25歳以下~29歳以下に ※定期会員は一般料金から10%割引

前売所

WEBチケットN響 <https://nhkso.pia.jp>

N響ガイド 0570-02-9502

チケットぴあ pia.jp/t/nhkso

e+(イープラス) eplus.jp/nhkso

ローソンチケット l-tike.com/nhkso

●ユースチケットはWEBチケットN響およびN響ガイドのみの取り扱いとなります。初回ご利用時に年齢確認のための「ユース登録」が必要となります。詳細はN響ホームページをご覧ください。●定期会員割引・先行発売はWEBチケットN響およびN響ガイドのみの取り扱いとなります。●車いす席をご希望の方は、N響ガイド(24日公演のみNHK厚生文化事業団)へお問い合わせください。●未就学児のご入場はお断りしています。●やむを得ない理由で出演者等が変更になる場合や、公演が中止となる場合がございます。公演中止の場合をのぞき、チケット代金の払い戻しはいたしません。●公演に関する最新情報はN響ホームページでご確認ください。

脱炭素の道へ。 水素とLPガスが加速する。



2050年、温暖化ガス排出実質ゼロ社会の実現を目指して。

イワタニはLPガス・**Maruigas**の全国330万世帯以上の販売ネットワークを活かし、脱炭素の主役となる水素を暮らしと産業にお届けする準備を進めています。

さらに、環境への負荷を減らすために、水素やアンモニアを混合した低炭素なLPガスの開発をはじめ、廃プラスチックやバイオガス由来の水素やLPガス製造、新しいLPガス合成技術などを推進。

私たちは、水素とLPガスで確かな答えを持つ

クリーンエネルギーのトップランナーとして走り続けます。

水素&LPガスシェアNo.1*

※国内における販売シェア(ただし、水素はオンサイト・パイピングを除く。2024年5月現在、自社調べ)

Iwatani
岩谷産業株式会社